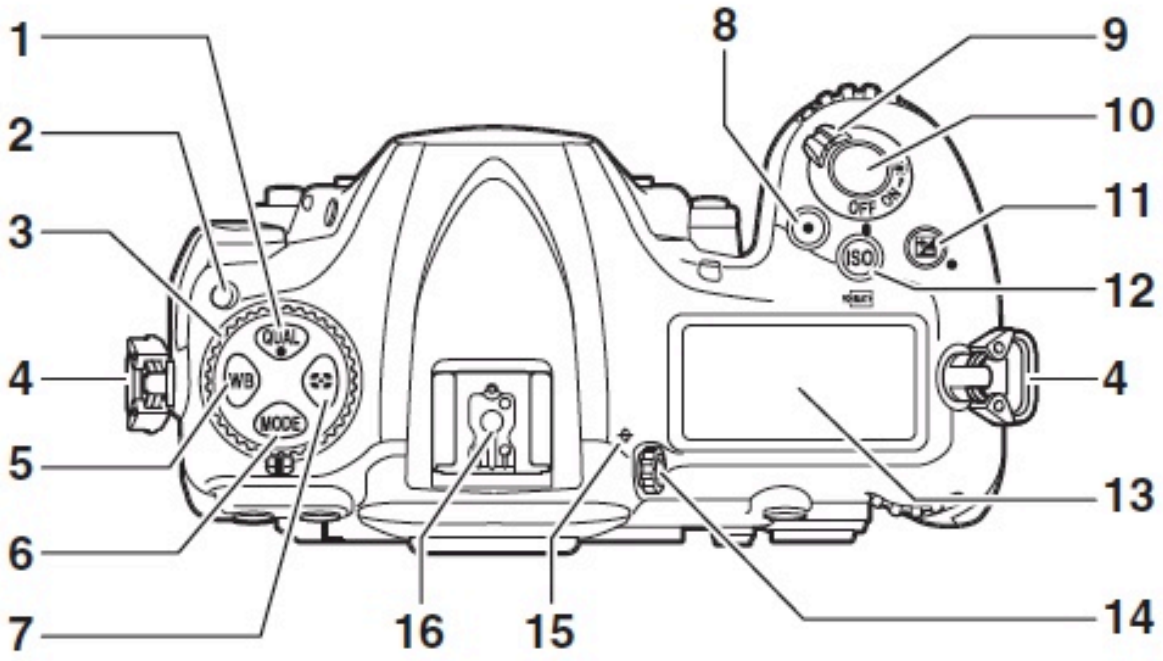
お使いになる前に

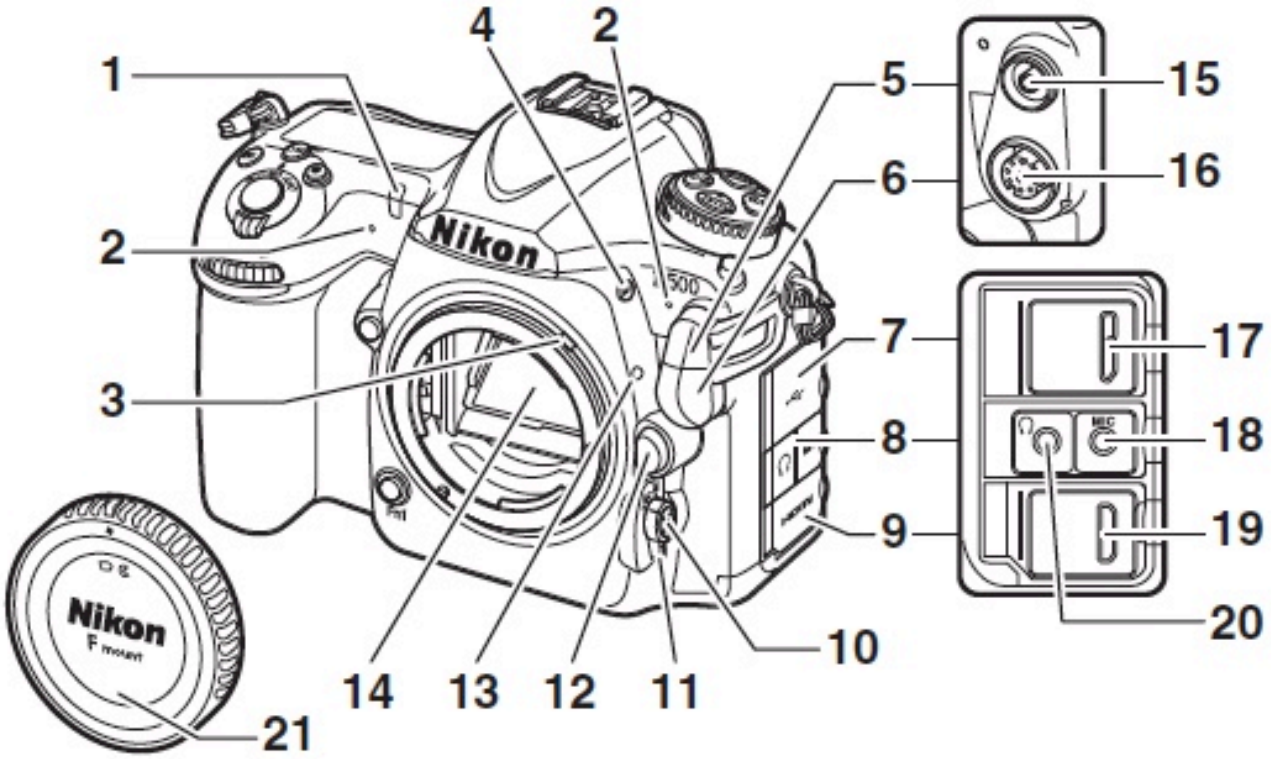
各部の名称と機能

カメラ本体



1	QUALボタン	86、89、222
2	レリーズモードダイヤルロックボタン	110
3	レリーズモードダイヤル	110
4	ストラップ取り付け部（吊り金具）	12
5	WBボタン	152、155、158
6	MODEボタン	123
7	ボタン	122
8	動画撮影ボタン	55、289
9	電源スイッチ	3、14、19
10	シャッターボタン	35、291
11	ボタン	137、222
12	ISO（）ボタン	116、120
13	表示パネル	5
14	視度調節ノブ	26
15	距離基準マーク	109
16	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）	187

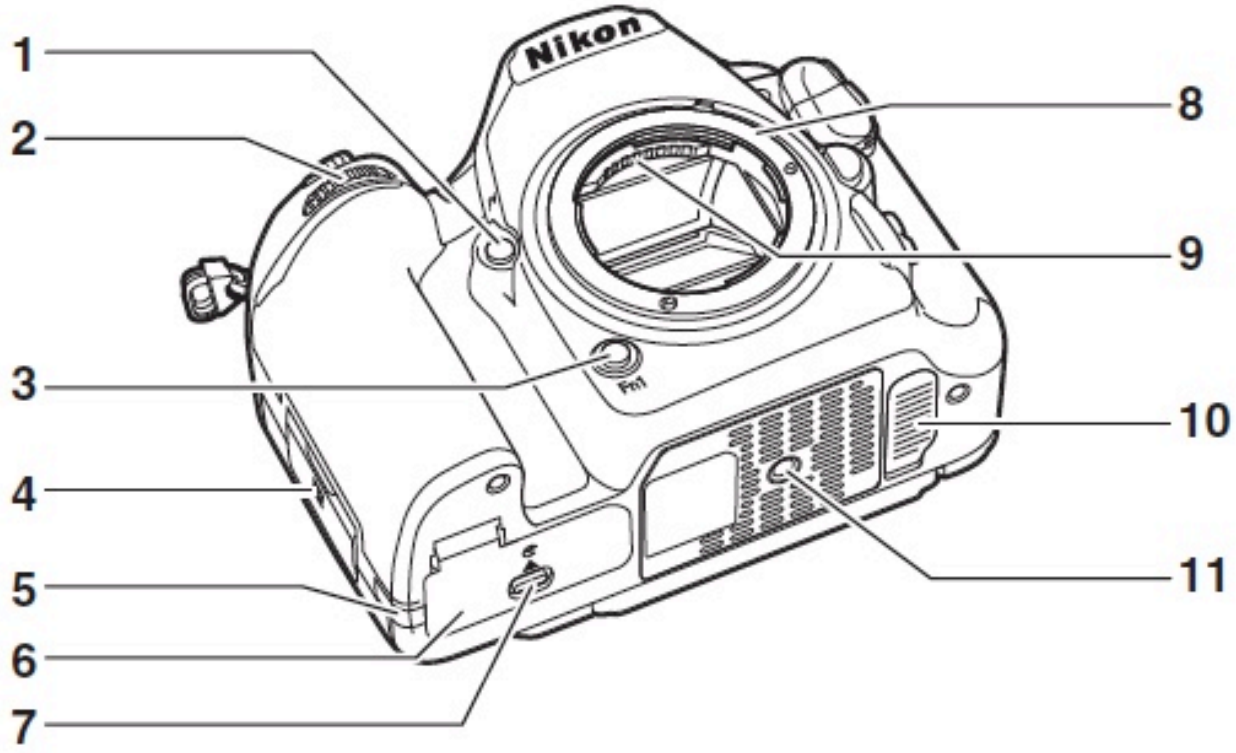
カメラ本体（つづき）



1	セルフタイマーランプ ……113	11	フォーカスモードセレクター ……42、91、108
2	マイク（ステレオ） ……55、57、279	12	レンズ取り外しボタン ……18
3	露出計連動レバー ……359	13	レンズ着脱指標 ……17
4	BKTボタン ……141、145、148、289	14	ミラー ……115、329
5	シンクロターミナルカバー ……188	15	シンクロターミナル ……188
6	10ピンターミナルカバー ……242、325	16	10ピンターミナル ……242、325
7	USB端子カバー	17	USB端子
8	ヘッドホン/マイク端子カバー ……58、60、66	18	外部マイク入力端子 ……66、325、362
9	HDMI端子カバー ……294、324	19	HDMI端子 ……294、324
10	AFモードボタン ……42、44、95、99	20	ヘッドホン出力端子 ……58、362
		21	ボディーキャップ ……17、324

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。



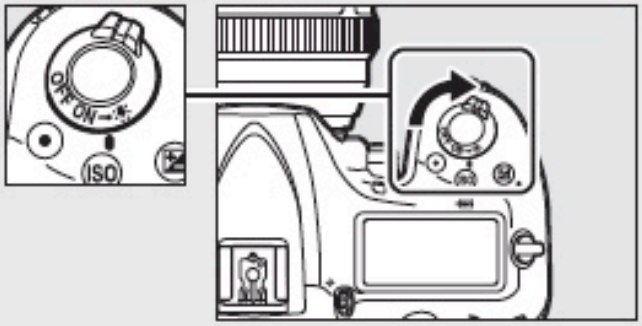
1	**Pv**ボタン .....41、127、289、291	7	バッテリー室開閉ノブ 14
2	サブコマンドダイヤル 290	8	レンズマウント .....17、109
3	**Fn1**ボタン .....289、291	9	レンズ信号接点
4	Nマーク（NFCアンテナ部）.....20	10	MB-D17用接点カバー 324
5	パワーコネクターカバー	11	三脚ネジ穴
6	バッテリー室カバー 14		

表示パネルの照明（イルミネーター）について

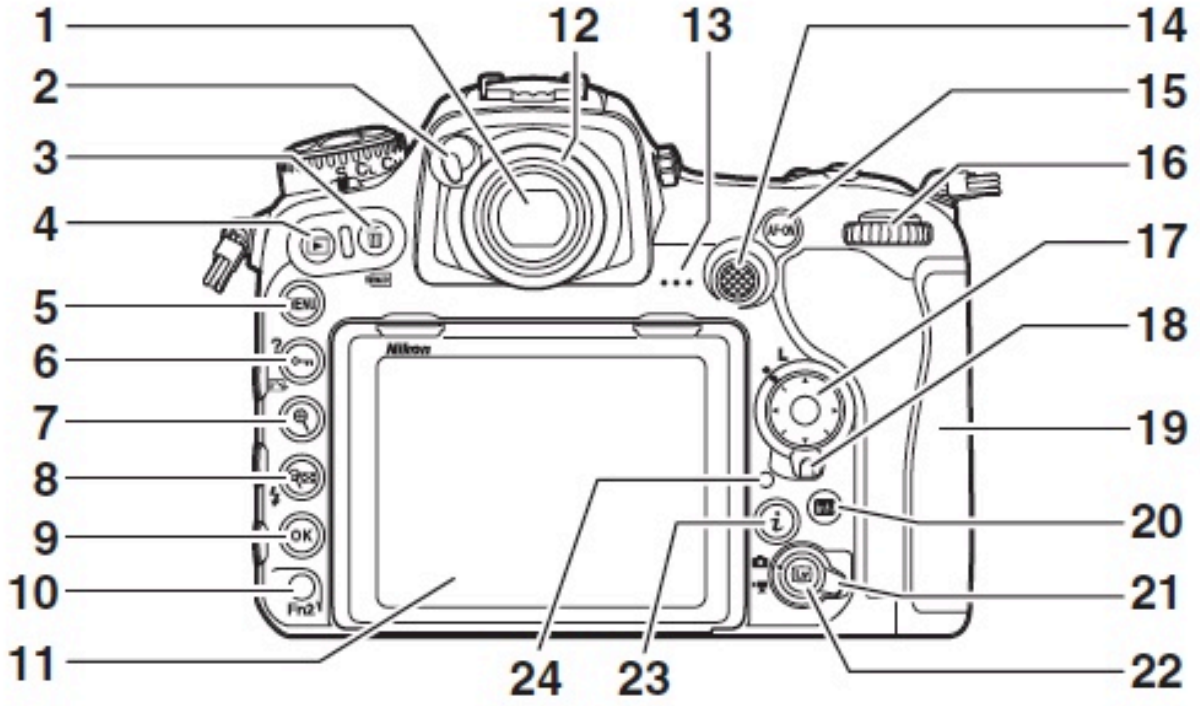
電源スイッチを☀マークの方向に回すと、表示パネルとボタンのイルミネーター（照明）が点灯し、電源スイッチを放すと、数秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☀マークの方向に回すと消灯します。

- ボタン照明が点灯すると、暗い場所で操作しやすくなります。

電源スイッチ



カメラ本体（つづき）



1	ファインダー接眼窓 ……26	13	スピーカー ……75
2	アイピースシャッターレバー ……113	14	サブセレクター ……103、105、135、289、291
3	🗑（FORMAT）ボタン ……37、267、292	15	AF-ONボタン ……96、106、289
4	▶ ボタン ……36、245	16	メインコマンドダイヤル ……290
5	MENUボタン ……27、270	17	マルチセレクター ……28、38、246
6	（WB/?）ボタン ……28、48、172、263	18	フォーカスポイントロックレバー ……102
7	⊕ボタン ……41、45、48、75、261	19	メモリーカードカバー ……14
8	（⚡）ボタン ……41、48、75、193、194、245、246、261	20	infoボタン ……218
9	OK OKボタン ……28	21	ライブビューセレクター ……39、54
10	Fn2ボタン	22	Lvボタン ……39、54、290
11	チルト式画像モニター ……8、36、39、54、245、292、293	23	*i*ボタン ……46、57、221、250
12	アイピース ……113	24	メモリーカードアクセスランプ ……16、35、112

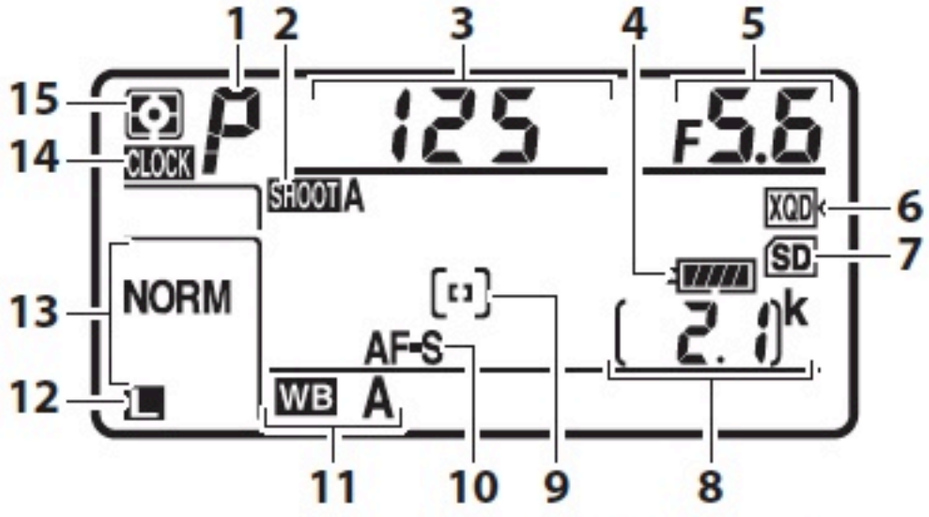
スピーカーについてのご注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

表示パネル

カメラの電源をONにすると、表示パネルが点灯します。表示パネルにはカメラの設定に関するさまざまな情報が表示されます。

初めて電源をONにしたときは、次の情報が表示されます。その他の情報については、本文中の各機能で説明しています。

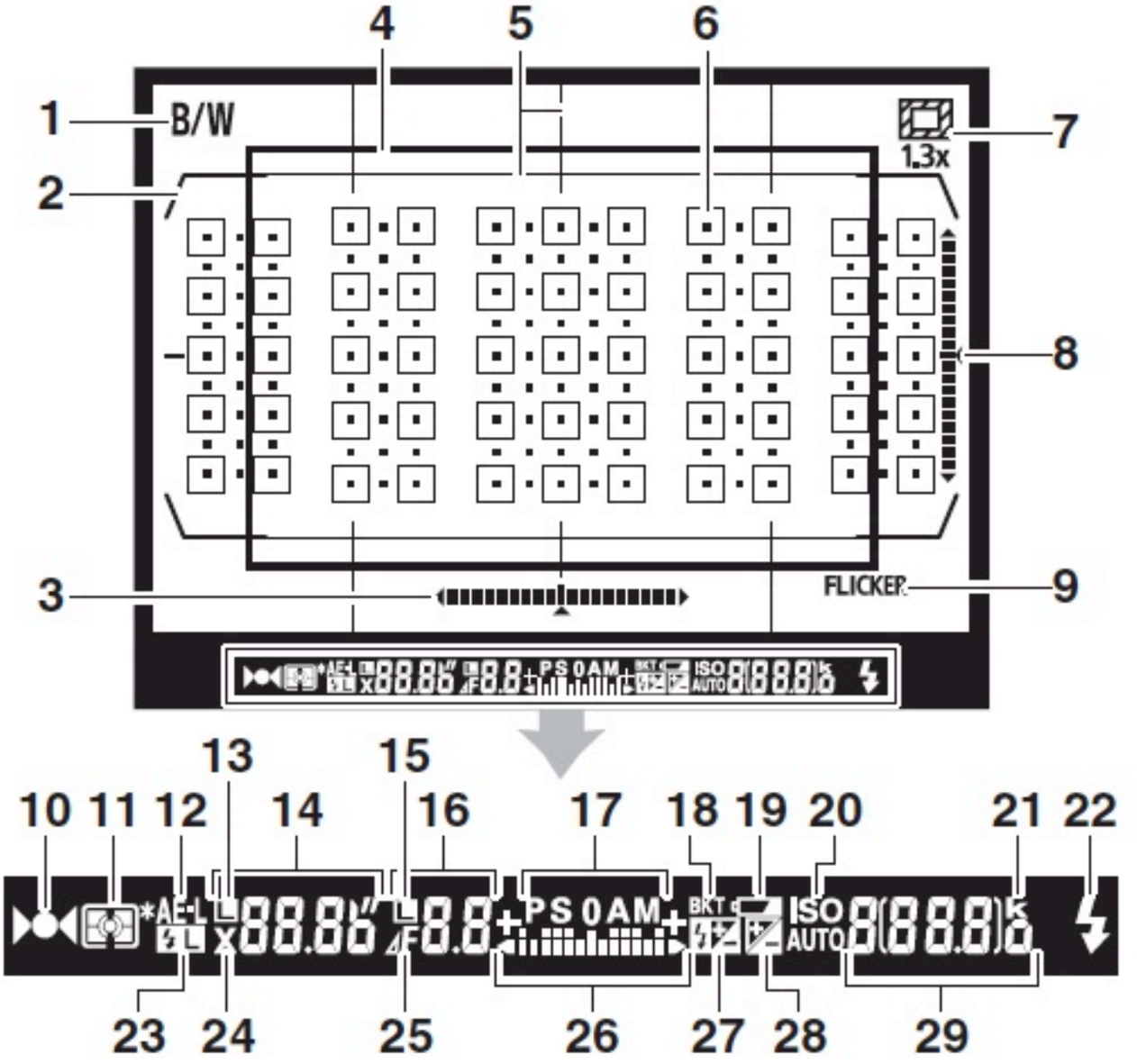


1	露出モード 123	8	記録可能コマ数 ..... 32、376
2	静止画撮影メニュー設定表示 272	9	AFエリアモードマーク ..97、100
3	シャッタースピード .....125、128	10	AFモードマーク 95
4	バッテリー残量表示 31	11	ホワイトバランスモード 151
5	絞り値 .....126、128	12	画像サイズ（JPEG/TIFF） 88
6	XQDカードマーク ..... 32、292	13	画質モード 85
7	SDカードマーク ..... 32、292	14	CLOCKマーク
		15	測光モード 121

CLOCKマークについて

表示パネルでCLOCKが点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー［**地域と日時**］（🕮292）の［**日時の設定**］で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクターとACアダプターを接続すると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）



1	白黒マーク ……171	9	フリッカー検出 ……225、276
2	AFエリアフレーム ……26	10	ピント表示 ……35、109
3	ローリング方向の水準器※1、2 ……293	11	測光モード ……121
4	対DX 1.3×クロップ撮像範囲 …83	12	AEロックマーク ……135
5	構図用格子線 ……286（カスタムメニュー d8［**ファインダー内格子線表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます）	13	シャッタースピードロックマーク ……133
6	フォーカスポイント表示 ……34、102、282、283	14	シャッタースピード ……125、128 AFモード ……95
7	対DX 1.3×クロップマーク ……83	15	絞り値ロックマーク ……133
8	ピッチング方向の水準器※1、3 ……293	16	絞り値 ……126、128 絞り込み段数 ……126、313
		17	露出モード ……123

18 オートブラケティング
マーク ……141
WBブラケティングマーク ……145
ADLブラケティングマーク ……148
19 バッテリー警告表示 ……31
20 ISO感度マーク ……116
感度自動制御設定マーク ……119
21 1000コマ以上補助表示 ……32
22 レディーライト※4
……187、197、360
23 FVロックマーク ……197
24 フラッシュシンクロマーク ……287
25 絞り込み段数マーク ……126、313
26 インジケーター
露出 ……129
露出補正 ……138
27 調光補正マーク ……194
28 露出補正マーク ……138
29 記録可能コマ数 ……32、376
連続撮影可能コマ数 ……111、376
ISO感度 ……116
ホワイトバランスプリセット
マニュアルデータ取得モード
表示 ……161
アクティブD-ライティング度合い
表示
AFエリアモード ……99
露出補正値 ……138
調光補正量 ……194
PC接続中マーク

※1 カスタムメニューf1［**カスタムボタンの機能**］（□289）で、［**ファインダー内水準器**］を割り当てたボタンを押したときに水準器インジケーターを表示します。
※2 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ピッチング方向の水準器になります。
※3 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向の水準器になります。
※4 別売のスピードライト（□317）使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

☑ ファインダーについてのご注意
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

☑ 高温、低温下での液晶表示について
表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

3 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる





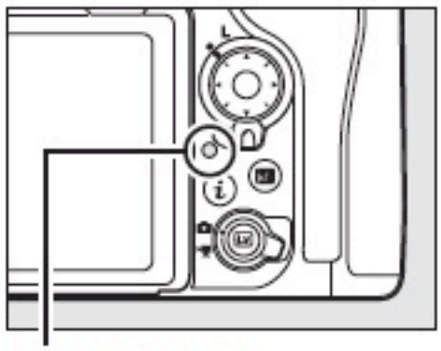
ピント表示

- ご購入時の設定では、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内ピント表示	意味
● （点灯）	被写体にピントが合っています。
▶ （点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀ （点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀ （点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体について」（🕮107）をご覧ください）。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する





メモリーカードアクセスランプ

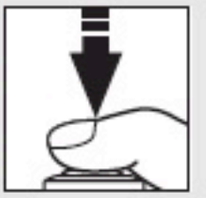
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。

メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。

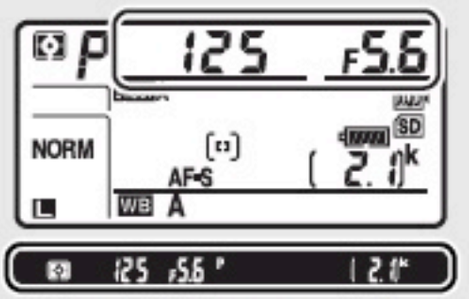
再生メニュー［削除］

再生メニューの［**削除**］（🕮270）では、複数の画像を選んで削除したり、再生フォルダー内の全画像を一括して削除したりできます。また、メモリーカードを2枚使っているときは、全画像を削除するメモリーカードスロットを指定できます。

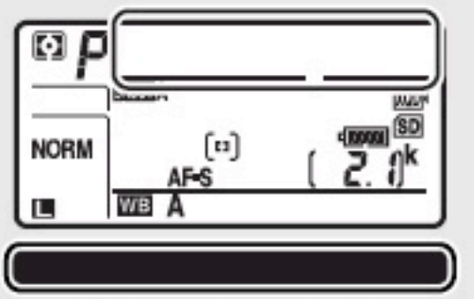
ファインダー撮影時の半押しタイマーについて



このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（🕮284）で変更できます。



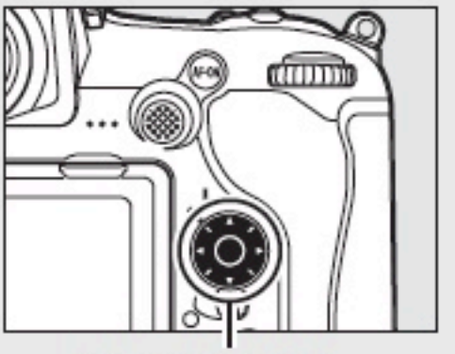
半押しタイマーオン



半押しタイマーオフ

撮影時のマルチセレクターの操作について

半押しタイマーがオンのときにマルチセレクターの▲▼◀▶またはななめを押すと、フォーカスポイントを自分で選べます（🕮102）。

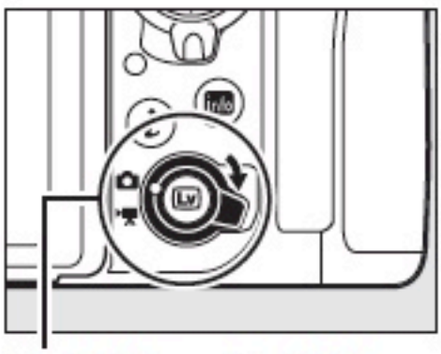


マルチセレクター

ライブビュー撮影

画像モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

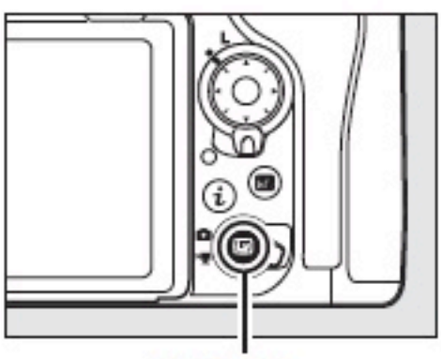
1 ライブビューセレクターを📷（静止画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセレクター

2 Lvボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。



Lvボタン

3 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- フォーカスポイントの形状はAFエリアモードによって異なります（🕮43）。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。
- 露出を固定（AEロック）するには、サブセレクターの**中央**を押し続けます（🕮135）。
- ライブビュー時にⓄⓀボタンを押すと、右のような露出プレビュー画面に切り替わります。露出プレビューに設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを画像モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正（🕮137）は、通常と同じ±5段まで設定できますが、画像モニターで確認できるのは±3段までになります。

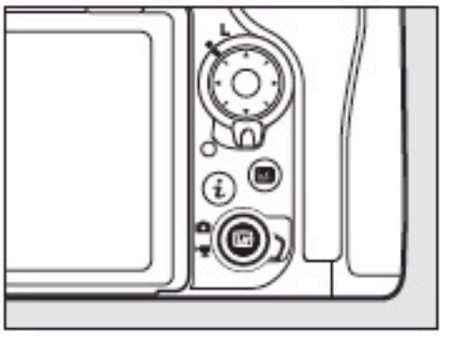


5 シャッターボタンを全押しして撮影する



- 撮影時は画像モニターが消灯します。

6 Ⓛⓥボタンを押してライブビューを終了する



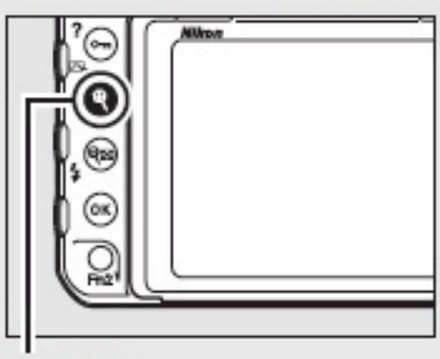
露出プレビューについて

- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
  - 別売スピードライト装着時
  - [**アクティブD-ライティング**]（🕮180）または［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］（🕮182）を設定した場合
  - ピクチャーコントロールの［**コントラスト**］が［**A**］（オート）の場合（🕮174）
  - シャッタースピードを**x 250**に設定した場合
  - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります（露出インジケーターが点滅します）。

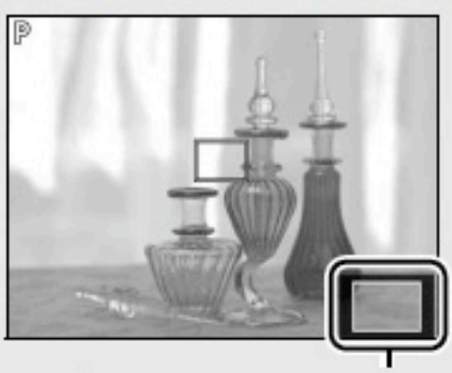
ライブビュー時の拡大表示

ライブビュー中に🔍ボタンを押すと、拡大表示できます（最大約11倍）。

- 🔍 ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍（⚡）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクターを操作すると、見たい部分に移動できます。



🔍ボタン



ナビゲーションウィンドウ

ライブビュー時のプレビュー機能

ライブビュー中に**Pv**ボタンを押すと開放絞りになり、ピントが確認しやすくなります。再度**Pv**ボタンを押すか、オートフォーカスでピントを合わせると、設定した絞り値に絞り込まれます。開放絞りにしたままでシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り値に絞り込まれてから撮影します。開放絞り中は画像モニターに開放絞りのアイコンが表示されます（🕮49）。

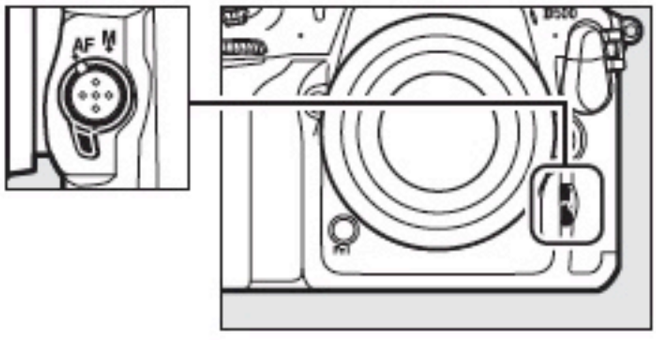
HDMI接続時の撮影について

HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ライブビュー時のオートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセレクター



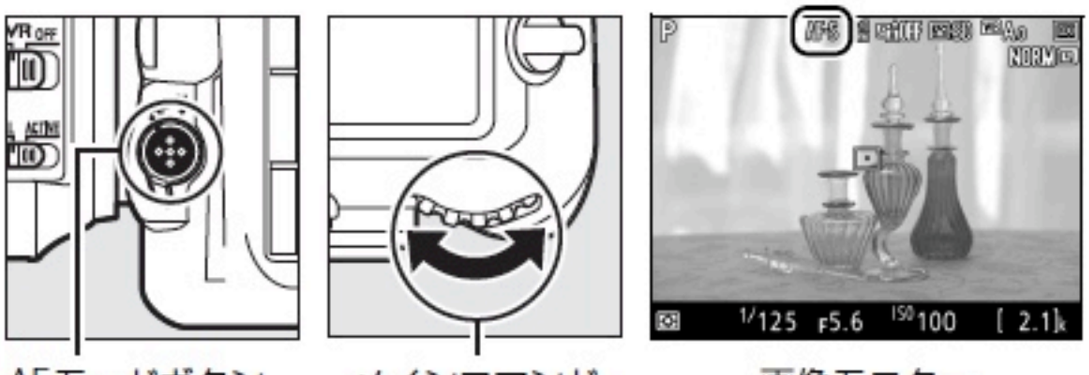
AFモードを変更する

AF-S シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

■■ ライブビュー時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

• AFモードは画像モニターに表示されます。



AFモードボタン　メインコマンドダイヤル　画像モニター

AFエリアモードを変更する

顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。
ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。
ターゲット追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。フォーカスポイントを被写体に重ねて**中央**ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度**中央**ボタンを押すと、追尾を終了します。

ターゲット追尾AFについてのご注意

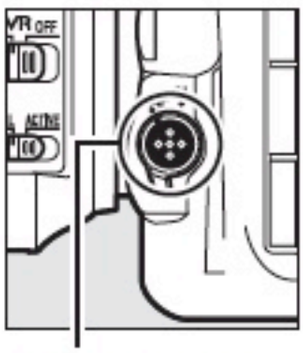
次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

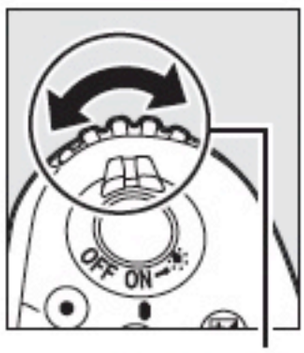
■ ライブビュー時のAFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

• AFエリアモードは画像モニターに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンドダイヤル



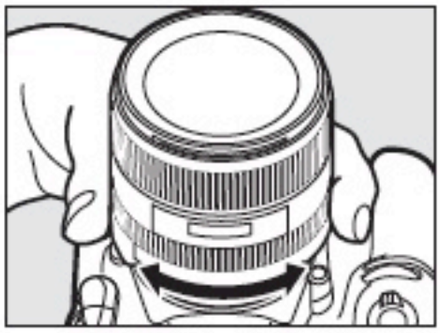
画像モニター

☑ ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意

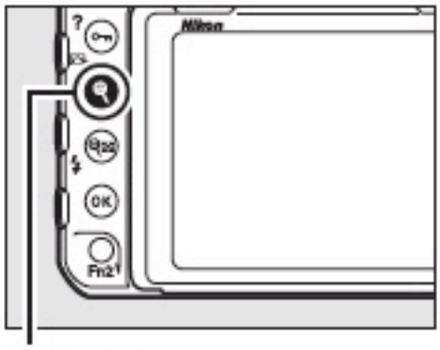
- ライブビュー時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
  - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき(オートフォーカス作動中)は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントが合っていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-SやAF-P以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

マニュアルフォーカスで撮影する

マニュアルフォーカス（🕮108）で撮影するときは、レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。



- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、🔍ボタンを押して被写体を拡大表示してください（🕮41）。

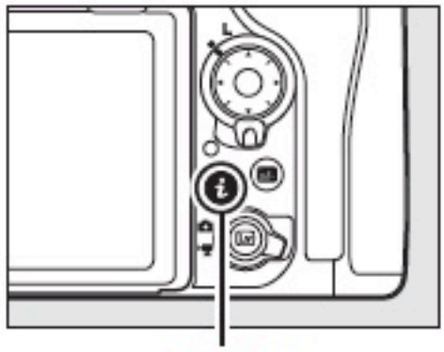


🔍ボタン

iボタンを使う

ライブビュー撮影時にiボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、OKボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度iボタンを押してください。



iボタン

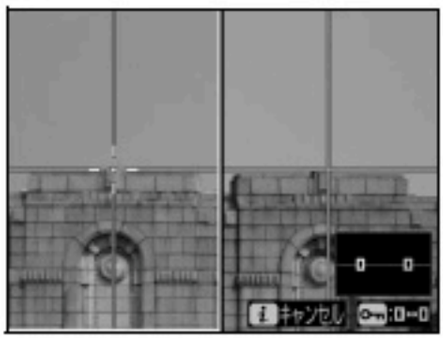


撮像範囲設定	ライブビュー撮影時の撮像範囲を選べます（🕮82）。
アクティブ D-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます（🕮180）。
電子先幕シャッター	電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます（🕮286）。
モニターの明るさ	• ライブビュー時の画像モニターの明るさを、▲または▼を押して調整できます。 • 画像モニターの明るさを調整すると、ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。



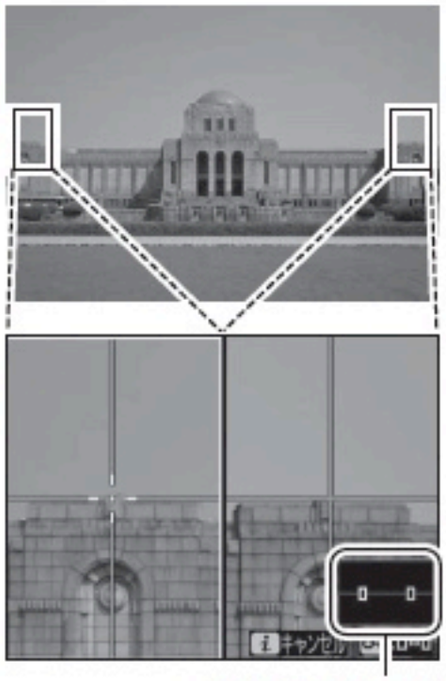
画像再生時やメニュー表示時の明るさについて

画像再生時やメニュー表示時などの画像モニターの明るさは、セットアップメニューの［**モニターの明るさ**］（🕮292）で設定してください。

静止画Lv画面のホワイトバランス	 ライブビュー撮影時には、撮影用のホワイトバランス(📖151)とは別に、画像モニター用のホワイトバランス（画像モニターの色み）を設定できます。撮影用のホワイトバランスを［**フラッシュ**］や［**プリセットマニュアル**］などに設定していると、実際に撮影される画像の色みと画像モニターで表示されている色みが異なることがあります。あらかじめ画像モニターの色みを撮影する画像の色みに合わせておくことで、撮影画像の仕上がりをイメージしやすくなります。 • ［**撮影時と同じ**］を選ぶと、画像モニター用ホワイトバランスは撮影用ホワイトバランスと同じになります。 • 画像モニター用ホワイトバランスは、カメラの電源をOFFにすると解除されます。**WB**ボタンを押しながらLvボタンを押すと、前回設定した画像モニター用ホワイトバランスの表示でライブビューを開始できます。
2点拡大	 同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示します。建築物などの水平合わせの確認に便利です（📖48）。

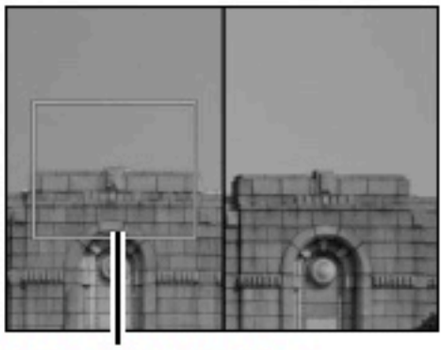
■■ 2点拡大

ライブビュー撮影時にiボタンを押して[**2点拡大**]を選ぶと、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます（2点拡大表示）。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の□部分が拡大されて表示されます。



ナビゲーション
ウィンドウ

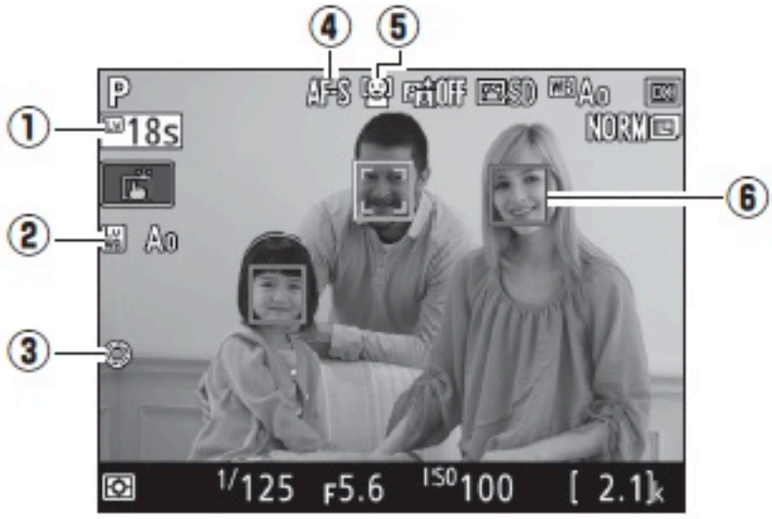
- ⊕ボタンを押すごとに拡大率が上がり、⊖（⚡）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセレクターの◀または▶を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合は🔑（🖼/?）ボタンを押します。
- マルチセレクターの▲または▼を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。



ピントが合う部分

- iボタンを押すと、2点拡大表示を終了します。

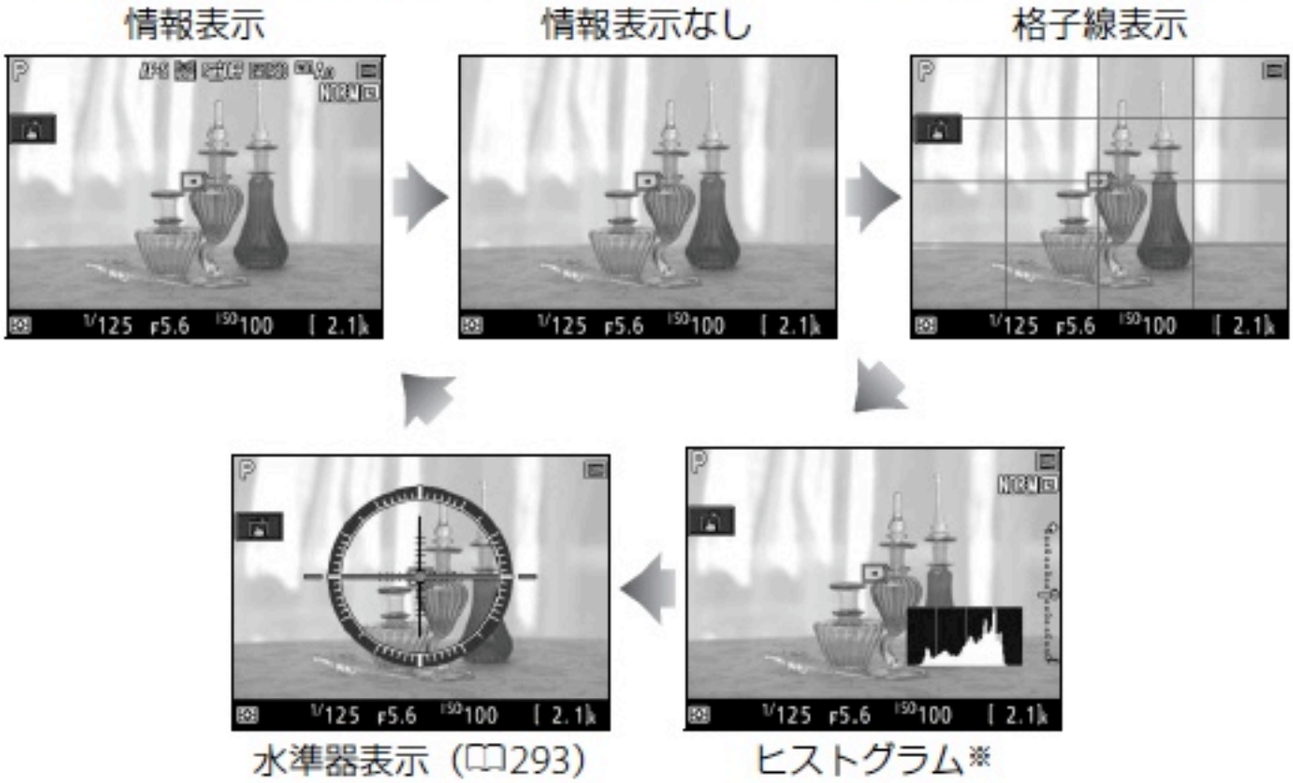
情報表示について



①	**ライブビュー残り時間**	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	🕮53
②	**静止画Lv画面のホワイトバランス**	画像モニターの色み（画像モニター用ホワイトバランス）を表示します。	🕮47
③	**開放絞り表示**	**Pv**ボタンを押して開放絞りにすると表示されます。	🕮41
④	**AFモード**	AFモードを表示します。	🕮42
⑤	**AFエリアモード**	AFエリアモードを表示します。	🕮43
⑥	**フォーカスポイント**	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモードにより異なります。	🕮43

表示を切り換える

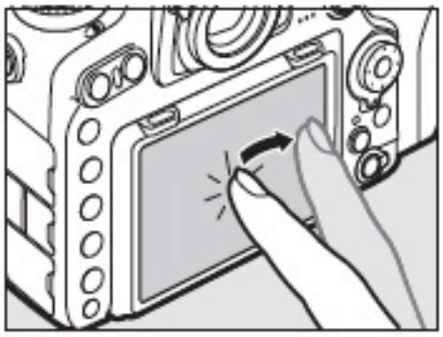
Infoボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



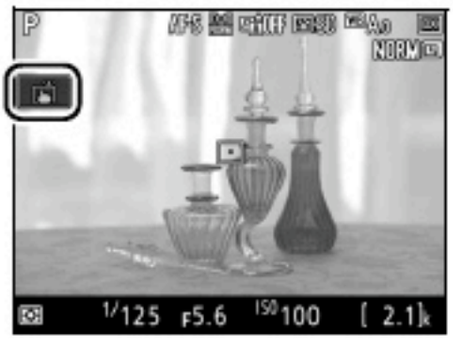
※ 露出プレビュー時（□40）のみ表示されます。

タッチシャッターで静止画を撮影する

タッチした位置にピントを合わせ、指を放すとシャッターがきれます。タッチしている間はピントが固定されます。



撮影画面で右図のアイコンにタッチすると、画面をタッチしたときの機能を切り換えられます。



	タッチした位置にフォーカスポイントを移動してピント合わせを行い、指を放すとシャッターがきれます。
AF	タッチした位置にフォーカスポイントを移動して、ピント合わせを行います。 • AFエリアモードがターゲット追尾AF（🕮43）の場合、追尾中に画面をタッチすると、追尾している被写体にピント合わせを行います。
OFF	タッチ操作は無効になります。

タッチ操作で撮影するときのご注意

- フォーカスモードセレクターを**M**にしている場合（🕮108）は、タッチしてもピント合わせを行いません。
- タッチするときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がブレる（手ブレする）ことがあります。
- 🖼に設定していても、シャッターボタンを押して撮影できます。
- タッチシャッターでは動画撮影中に静止画の撮影（🕮64）はできません。
- レリーズモードを**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、または**QC**（静音連続撮影）に設定していても、1コマしか撮影されません。連続撮影するには、シャッターボタンを押して撮影してください。
- セルフタイマー（🕮113）設定時は、画面の被写体をタッチするとピントが固定され、指を放してから約10秒後にシャッターがきれます。また、セルフタイマーの撮影コマ数を1コマ以外に設定した場合、連続で撮影します。セルフタイマーの作動時間と撮影コマ数は、カスタムメニューc3［**セルフタイマー**］で変更できます（🕮285）。
- フォーカスポイントロックレバーが**L**（ロック）の位置になっている場合、タッチ操作によるフォーカスポイントの移動はできません。ただし、AFエリアモードが顔認識AFの場合は、タッチした顔に黄色の二重枠を移動します（🕮43）。

ライブビュー撮影時のご注意

- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 動きのある被写体が歪んで表示される
    - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
    - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、動画撮影メニューの［**フリッカー低減**］（🕮279）で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じてください（🕮113）。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ライブビュー中は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（🕮284）の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30 秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します（🕮49）。

- カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］（🕮285）の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。［**モニターのパワーオフ時間**］の［**ライブビュー表示**］を［**制限なし**］に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了 30 秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

関連ページ

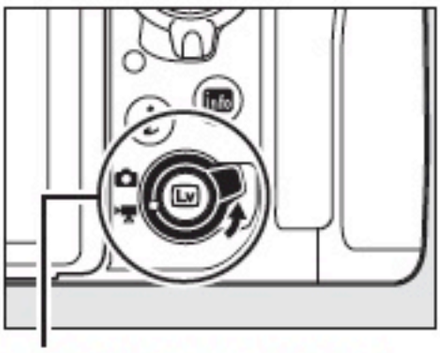
- ライブビューの表示時間を設定する → c4［**モニターのパワーオフ時間**］（🕮285）
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする → f2［**中央ボタンの機能**］（🕮289）
- Lvボタンの動作を制限する → f8［**ライブビューボタンの設定**］（🕮290）
- ライブビュー中の動画撮影ボタンとコマンドダイヤルの機能を設定する → f1［**カスタムボタンの機能**］の［**動画撮影ボタン+**］（🕮289）

動画撮影と再生

動画を撮影する

画像モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

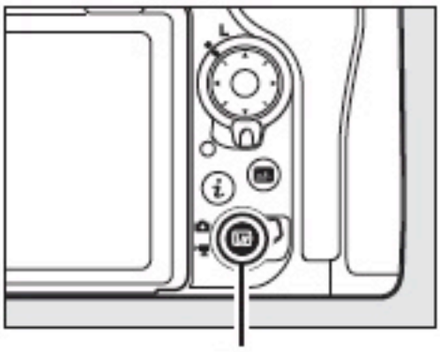
1 ライブビューセレクターを🎥（動画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセレクター

2 Lvボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。
- ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を画像モニターで確認できます。



Lvボタン

3 動画撮影時のAFモードを設定する

- 動画撮影時のAFモードの設定方法については、「AFモードを変更する」（🕮42）をご覧ください。

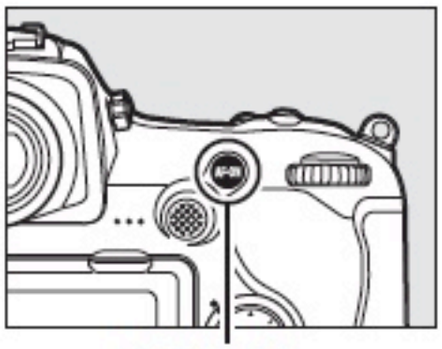


4 動画撮影時のAFエリアモードを設定する



- 動画撮影時のAFエリアモードの設定方法については、「AFエリアモードを変更する」（🕮43）をご覧ください。

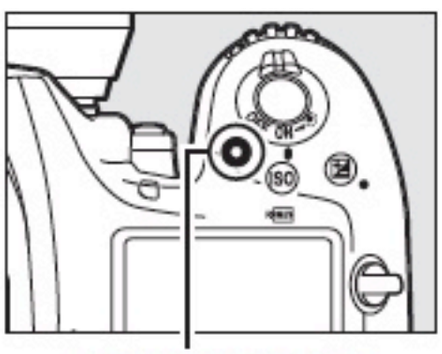
5 AF-ONボタンを押して、ピントを合わせる



AF-ONボタン

- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。

6 動画撮影ボタンを押して、動画記録を始める



動画撮影ボタン

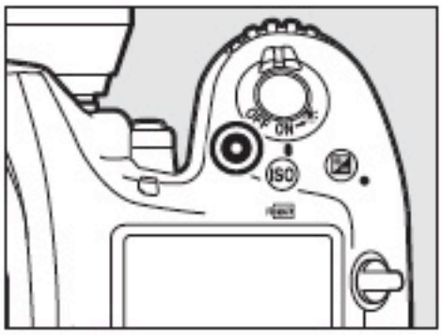
録画中マーク



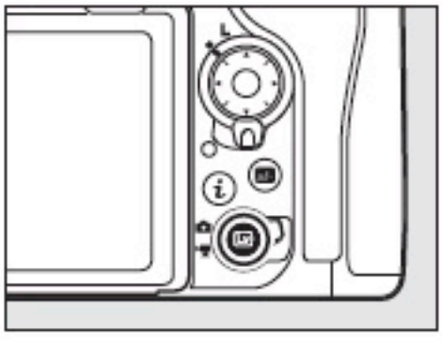
残り時間

- 動画記録中は録画中マークが画像モニターに表示されます。メモリーカードに記録できる残り時間の目安も画像モニターで確認できます。
- 動画記録中も、**AF-ON**ボタンを押すと被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイク（🕮2）で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 露出を固定（AEロック）するには、サブセレクターの**中央**を押し続けます（🕮135）。
- 動画記録中は±3段の範囲で露出補正ができます（🕮137）。
- 動画撮影中に画面をタッチすると、タッチした位置にフォーカスポイントが移動してピントを合わせることができます。

7 もう一度動画撮影ボタンを押して、動画記録を終了する



8 Lvボタンを押してライブビューを終了する



インデックスマーキングについて

動画記録中に、カスタムメニューg1［**カスタムボタンの機能**］（🕮291）で［**インデックスマーキング**］を割り当てたボタンを押すと、記録中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます（🕮75）。インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。



インデックスマーク

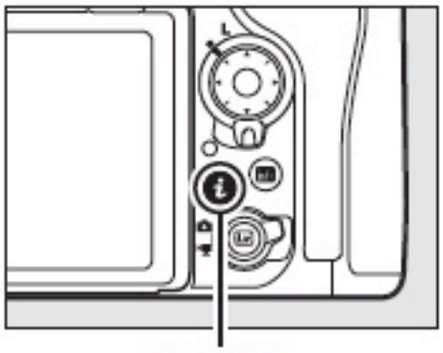
動画撮影時のピント合わせについて

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

iボタンを使う

動画撮影時にiボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、OKボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度iボタンを押してください。



iボタン



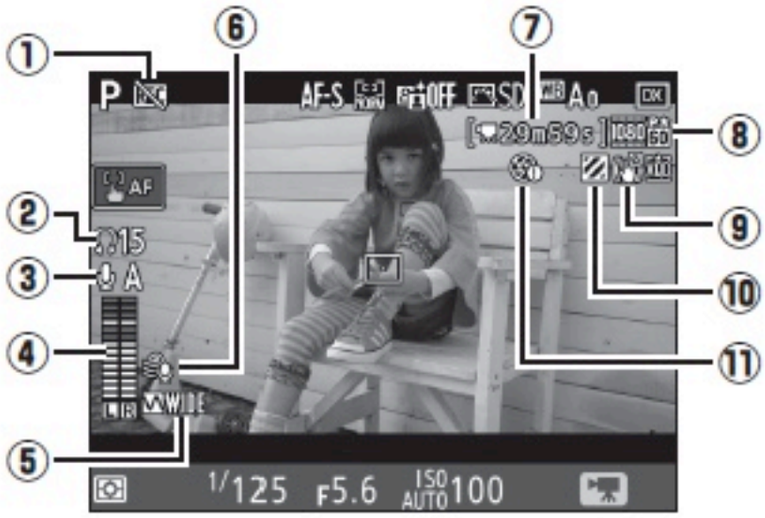
撮像範囲設定	動画撮影時の撮像範囲を選べます（🕮63）。
画像サイズ/フレームレート	動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）/フレームレートを設定します（🕮61）。
アクティブD-ライティング	動画撮影時のアクティブD-ライティングの設定を変えられます（🕮180）。 • 動画の画像サイズ（🕮61）が3840×2160の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
動画の画質	動画の画質を選べます（🕮61）。
マイク感度	内蔵マイクまたは外部マイク（🕮325）の感度を、▲または▼を押して調整できます（🕮279）。 
録音帯域	内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します（🕮279）。
風切り音低減	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます（🕮279）。
動画記録先	メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定できます（🕮277）。

モニターの明るさ	• 動画撮影時の画像モニターの明るさを、▲または▼を押して調整できます。 • 画像モニターの明るさを調整すると、ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。
マルチセレクターによるパワー絞り	マルチセレクターによるパワー絞りを有効にするかどうかを設定できます。 • [**有効**] に設定すると、▲を押している間、開放絞り側に絞りが動きます。また、▼を押している間、最小絞り側に絞りが動きます。
ハイライト表示	動画撮影時、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示するかどうかを設定できます。 ハイライト部分 
ヘッドホン音量	ヘッドホン音量を、▲または▼を押して調整できます。
電子手ブレ補正	動画撮影時に電子手ブレ補正を行います。 • 動画の画像サイズ（🕮61）が3840×2160の場合、電子手ブレ補正は機能しません。 • [**撮像範囲設定**] が [**DX**] の場合（🕮63）、電子手ブレ補正を [**する**] に設定すると画角が小さくなるため少し拡大されます。

ヘッドホンについて

- 市販のヘッドホンをヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから再生されます。
- マイク感度を最大にして撮影した動画を再生すると、大音量で再生される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

情報表示について



① 動画記録禁止マーク	動画が記録できない状態のとき表示します。	—
② ヘッドホン音量	市販のヘッドホン接続時に表示されます。ヘッドホン出力の音量レベルを表示します。	🕮58
③ マイク感度	マイク感度のレベルを表示します。	🕮279
④ 音声レベルインジケーター	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	—
⑤ 録音帯域マーク	録音帯域の設定を表示します。	🕮279
⑥ 風切り音低減マーク	風切り音低減が有効の場合に表示します。	🕮279
⑦ 動画記録残り時間	動画記録時に、メモリーカードに記録できる残り時間を表示します。	🕮55
⑧ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	🕮61
⑨ 電子手ブレ補正マーク	電子手ブレ補正が有効の場合に表示します。	🕮280
⑩ ハイライト表示マーク	ハイライト表示が有効の場合に表示します。	🕮58
⑪ パワー絞り禁止マーク	パワー絞りができないときに表示します。	🕮58

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します（🕮49）。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、画像モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

動画撮影中の調整について

- ヘッドホンの音量は変更できません。
- マイク感度を🔇以外に設定すると、動画記録中にマイク感度を変更できます。🔇には変更できません。

[画像サイズ/フレームレート] および [動画の画質] について

動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。［**動画の画質**］では、動画の画質を高画質と標準から選べます。それぞれの設定時の最大ビットレートと最長記録時間は次の通りです。

	［画像サイズ/フレームレート］※1	**最大ビットレート（［動画の画質］**※2：**★高画質/標準）**	**最長記録時間**
2160 50p	**3840×2160** (4K UHD) **30p**※3	144Mbps	29分59秒※4
2160 25p	**3840×2160** (4K UHD) **25p**※3		
2160 24p	**3840×2160** (4K UHD) **24p**※3		
1080 50p/1080 50p	**1920×1080 60p**	48Mbps/24Mbps	
1080 50p/1080 50p	**1920×1080 50p**		
1080 50p/1080 50p	**1920×1080 30p**	24Mbps/12Mbps	
1080 25p/1080 25p	**1920×1080 25p**		
1080 24p/1080 24p	**1920×1080 24p**		
720 50p/720 50p	**1280×720 60p**		
720 50p/720 50p	**1280×720 50p**		

※1 60p：59.94コマ/秒（fps）、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

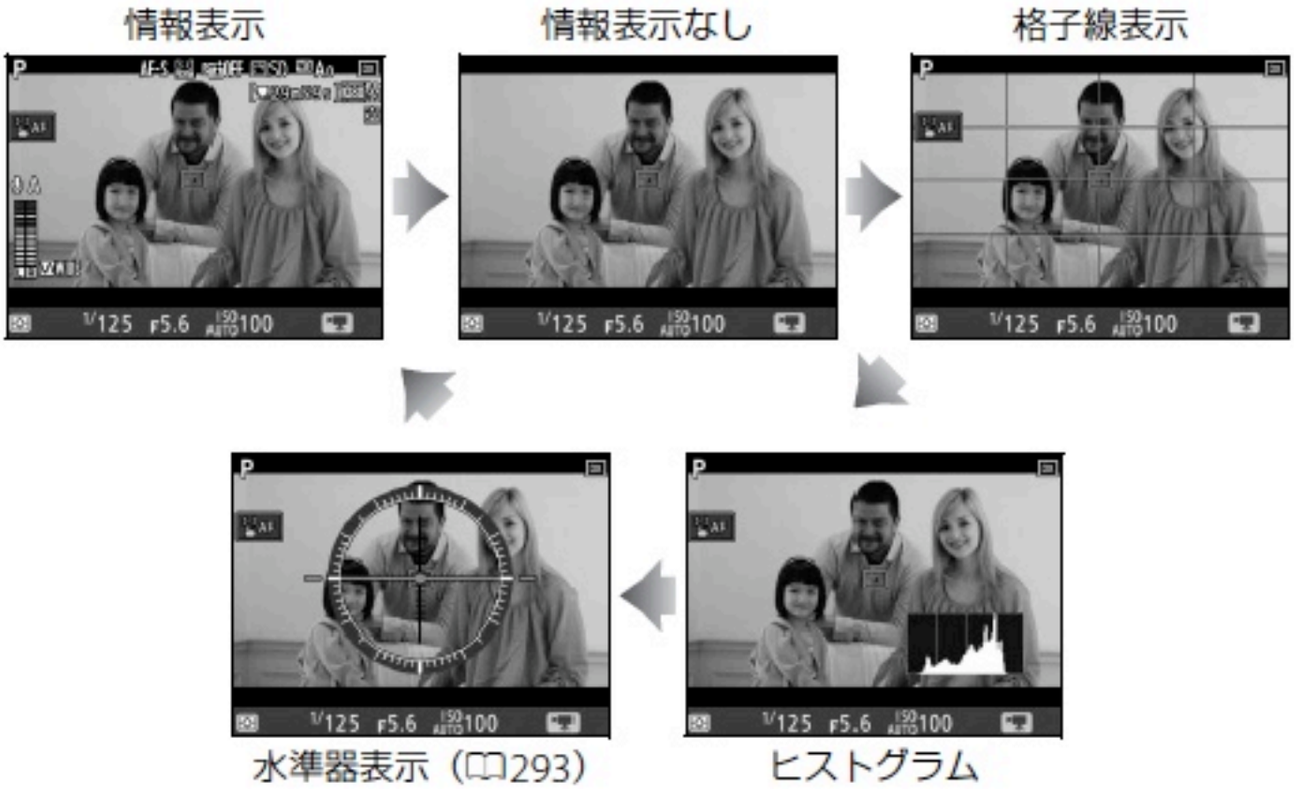
※2［**動画の画質**］が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。画像サイズを3840×2160に設定した場合は、常に高画質で記録されます。

※3 画像サイズを3840×2160に設定した場合は 150M が表示されます。

※4 動画は最大8個のファイルに分割されて記録されます。各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は［**画像サイズ/フレームレート**］および［**動画の画質**］の設定によって異なります。

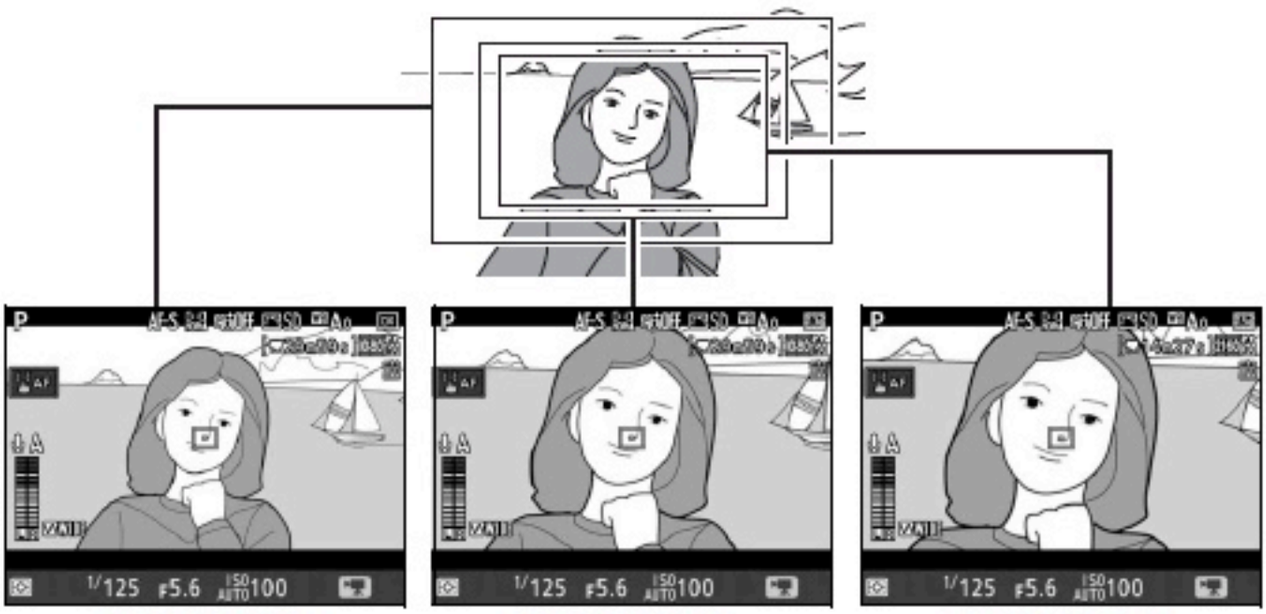
表示を切り換える

INFOボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



動画撮影時の画角について

動画のアスペクト比（縦横比）は、16：9です。動画の画角は、動画の画像サイズ（🕮61）と動画撮影メニューの［**撮像範囲設定**］（🕮277）によって異なります。



1920×1080、1280×720（［**撮像範囲設定**］が［**DX**］の場合）

1920×1080、1280×720（［**撮像範囲設定**］が［**1.3×**］の場合）

3840×2160

- 画像サイズが1920×1080または1280×720の場合、［**撮像範囲設定**］を［**1.3×**］に設定すると、DXフォーマットの約1.3倍に相当する画角で撮影されます。画像サイズが3840×2160の場合は、［**撮像範囲設定**］の設定に関わらずDXフォーマットの約1.5倍に相当する画角で撮影されます。
- 動画撮影時の撮像範囲は次の通りです。
  - 画像サイズが3840×2160の場合：約16.2×9.1mm
  - 画像サイズが1920×1080または1280×720で、［**撮像範囲設定**］が［**DX**］の場合：約23.5×13.3mm
  - 画像サイズが1920×1080または1280×720で、［**撮像範囲設定**］が［**1.3×**］の場合：約18.0×10.1mm

動画撮影時の静止画撮影



カスタムメニューg1［**カスタムボタンの機能**］の［**シャッターボタン**］（🕮291）を［**静止画撮影**］に設定した場合、動画撮影中（ライブビュー時または動画記録時）にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しし続けると、静止画を撮影します。撮影される静止画のアスペクト比（横：縦）は、16：9になります。

- 動画記録中の場合、動画記録は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 画質モードは、静止画撮影メニュー［**画質モード**］（🕮85）で設定した内容になります。ただし、動画の画像サイズ（🕮61）を3840×2160に設定した場合は［**FINE★**］になります。
- 動画撮影時の静止画撮影の露出は画像モニターでは確認できません。露出モード**P**、**S**、**A**での撮影をおすすめします。露出モード**M**で撮影する場合は、一度ライブビューセレクターを📷に合わせて露出を確認してから撮影することをおすすめします。

■■ 撮影できる静止画の画像サイズ

撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです。

- 1920×1080、1280×720の場合、静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**JPEG/TIFF**］の設定によって、撮影される画像サイズが異なります。

動画の画像サイズ（🕮61）	撮影される静止画の画像サイズ（🕮88）
3840×2160	3840×2160ピクセル
1920×1080、1280×720（動画撮影メニュー［**撮像範囲設定**］が［**DX**］の場合）	**L**（5568×3128ピクセル）
	M（4176×2344ピクセル）
	S（2784×1560ピクセル）
1920×1080、1280×720（動画撮影メニュー［**撮像範囲設定**］が［**1.3×**］の場合）	**L**（4272×2400ピクセル）
	M（3200×1800ピクセル）
	S（2128×1192ピクセル）

動画撮影について

- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間（🕮61）に満たないで記録が自動的に終了する場合があります。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
- （動画記録禁止）マーク（🕮59）が表示されているときは、動画記録できません。
- １つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影中は測光モードをスポット測光に設定できません。
- 動画を撮影するときは、常にsRGBの色空間で撮影されます。
- 動画撮影時は、別売のスピードライト（🕮317）は発光しません。
- 露出モード**P**、**S**で画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度ライブビューを開始するか、露出モードを**A**にして、絞りの調整を行ってください。
- 動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、露出モードによって異なります。

	絞り値	シャッタースピード	ISO感度※1
P、**S**	—	—	— ※2
A	○	—	— ※2
M	○	○	○※3

※1 動画撮影メニューの［**電子手ブレ補正**］が［**する**］のときにISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 5）になった場合は、ISO 51200に制限されます。

※2 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］（🕮278）の［**制御上限感度**］でISO感度の上限を設定できます。

※3 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**Mモード時の感度自動制御**］を［**する**］に設定した場合、［**制御上限感度**］でISO感度の上限を設定できます。

- 動画撮影中に**WB**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます（🕮151）。

マニュアル露出での動画撮影について

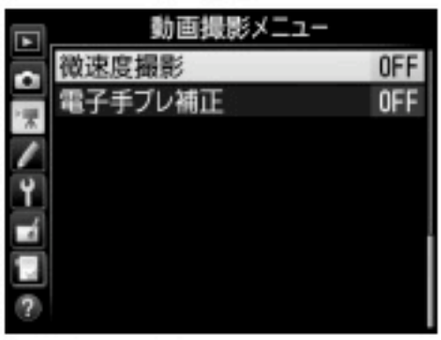
露出モード**M**で動画撮影する場合、シャッタースピードを1/25～1/8000秒の範囲で設定できます（動画のフレームレート（🕮61）によって、低速側の制限が異なります）。

静止画をつないで動画にする（微速度撮影）

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。動画撮影メニューの［**撮像範囲設定**］（🕮277）、［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画の画質**］（🕮61）および［**動画記録先**］（🕮277）で設定した内容で動画が記録されます。

■■ 微速度撮影の開始

1 動画撮影メニューの［微速度撮影］を選ぶ



- マルチセレクターの▶を押すと、微速度撮影の設定画面が表示されます。



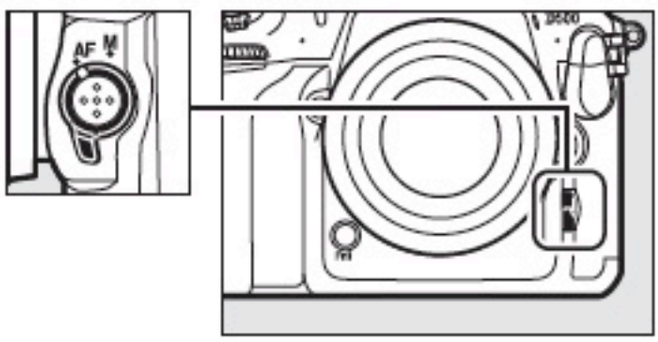
微速度撮影を開始する前に

- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクターと AC アダプター、または充分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします（🕮113）。

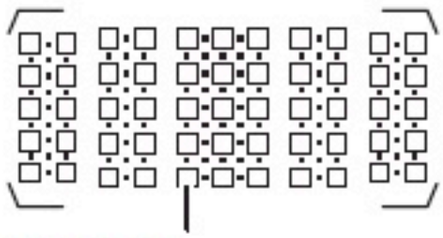
フォーカス

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

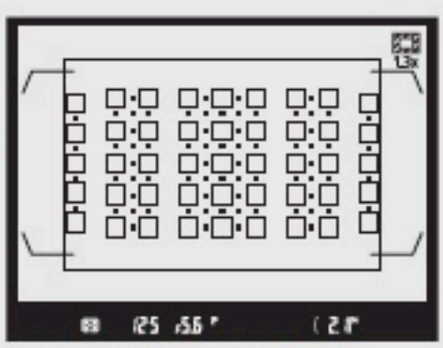


- このカメラは、153点のフォーカスポイントを使用してピントを合わせます。そのうちの55点（右図で□で表示されているポイント）は自分で選ぶことができます（🕮102）。


選択可能な
フォーカスポイント

［撮像範囲設定］が［1.3×（18×12）］のときのフォーカスポイントについて

［**撮像範囲設定**］（🕮82）が［**1.3×（18×12）**］の場合、左右両端を除く117点のフォーカスポイントを使用してピントを合わせます。自分で選ぶことができるポイントは45点です（🕮102）。


［**1.3×（18×12）**］に
設定したときのフォーカス
ポイント

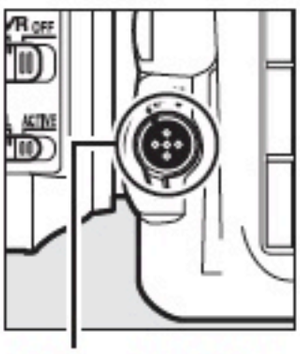
AFモードを変更する

AF-S シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。 • 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです（🕮281）。
AF-C コンティニュアス AFサーボ	ファインダー内のピント表示（●）がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（🕮96）に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです（🕮281）。

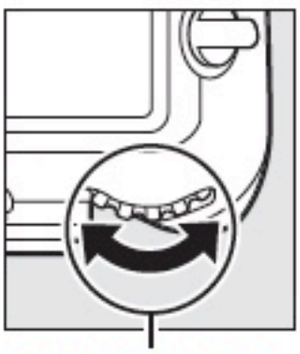
■■ AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

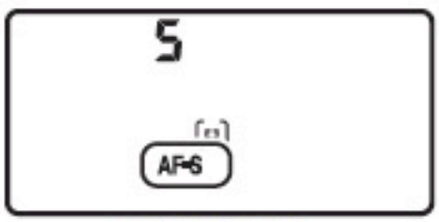
• AFモードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



AFモードボタン



メインコマンドダイヤル



表示パネル



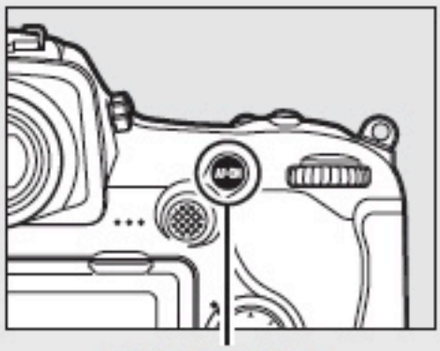
ファインダー内表示

関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする → a1 [**AF-Cモード時の優先**] (📖281)
- AF-Sをレリーズ優先モードにする → a2 [**AF-Sモード時の優先**] (📖281)
- シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする → a8 [**半押しAFレンズ駆動**] (📖282)
- AFモードを [**AF-S**] または [**AF-C**] に固定する → a10 [**AFモードの制限**] (📖282)
- サブコマンドダイヤルでAFモードを切り換えられるようにする → f4 [**コマンドダイヤルの設定**] の [**メインとサブの入れ換え**] (📖290)
- ライブビュー / 動画撮影時の AF モードを設定する →「AF モードを変更する」(📖42)

AF-ONボタンについて

AF-ONボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。



AF-ONボタン

予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときに、シャッターボタンを半押しするか、**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

AFエリアモードを変更する

AFエリアモード	内容
シングルポイントAF	フォーカスポイントを自分で選べます（🕮102）。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミックAF・25点	AFモードの**AF-C**（🕮95）との組み合わせで、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。 • **ダイナミックAF・25点**：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています（例：陸上競技やモータースポーツ）。 • **ダイナミックAF・72点**：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています（例：フィールドスポーツ）。 • **ダイナミック AF・153 点**：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています（例：野鳥撮影）。※
ダイナミックAF・72点	
ダイナミックAF・153点	
3D-トラッキング	AFモードの**AF-C**（🕮95）との組み合わせで、153点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。※ 選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています（例：テニス）。 • カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。 

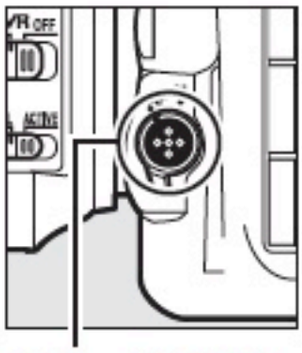
AFエリアモード	内容
グループエリアAF	撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体を捉えるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1つのフォーカスポイントでは捉えにくい被写体を撮影する場合に適しています。 • AFモードが**AF-S**のときは、人物の顔を認識します。その場合は、認識した顔を優先してピントを合わせます。
オートエリアAF	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。  • AFモードが**AF-S**のときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示します。**AF-C**のときは、使用するフォーカスポイント1点を表示します。

※［**撮像範囲設定**］（🕮82）が［**1.3× (18×12)**］のときは、左右両端を除く117点のフォーカスポイントを使用してピントを合わせます（🕮91）。

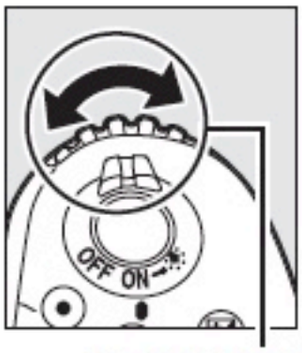
■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

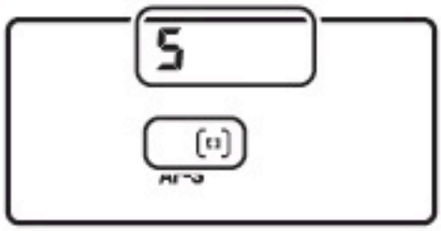
• AFエリアモードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



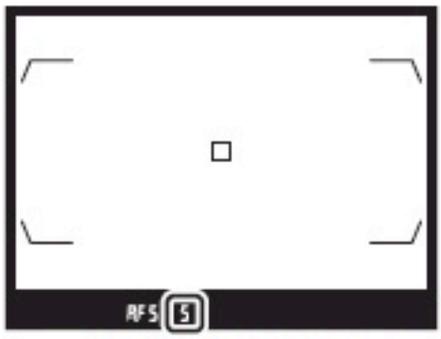
AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル



ファインダー内表示

3D-トラッキングについて

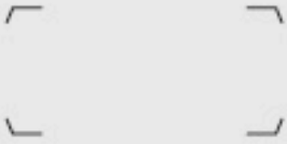
3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。

AFエリアモードの表示について

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示	ファインダー内表示（撮影時）
シングルポイントAF	S	S	
ダイナミックAF・25点※	d 25	d 25	
ダイナミックAF・72点※	d 72	d 72	
ダイナミックAF・153点※	d 153	d 153	
3D-トラッキング	3d	3d	
グループエリアAF	GrP	GrP	
オートエリアAF	Auto	Auto	

※ 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

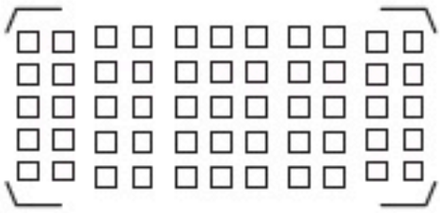
AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のAFエリアモードついて

AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用して合成絞り値がF5.6より暗い場合、AFエリアモードを3D-トラッキングまたはオートエリアAFに設定していても、シングルポイントAFに変更されます。

関連ページ

- AFロックオンを設定する → a3［**AFロックオン**］(🕮281)
- 3D-トラッキング時に顔認識するかどうかを設定する → a4［**3D-トラッキングの顔認識**］(🕮281)
- 3D-トラッキング時に追尾する被写体の範囲を設定する → a5［**3D-トラッキングの捕捉領域**］(🕮281)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントやAFエリアモードを設定する → a7［**縦/横位置フォーカス切換**］(🕮282)
- 使用するAFエリアモードを限定する → a9［**AFエリアモードの限定**］(🕮282)
- フォーカスポイントの表示の設定を変更する → a12［**フォーカスポイント表示の設定**］(🕮283)
- メインコマンドダイヤルでAFエリアモードを切り換えられるようにする → f4［**コマンドダイヤルの設定**］の［**メインとサブの入れ換え**］(🕮290)
- ライブビュー/動画撮影時のAFエリアモードを設定する →「AFエリアモードを変更する」(🕮43)

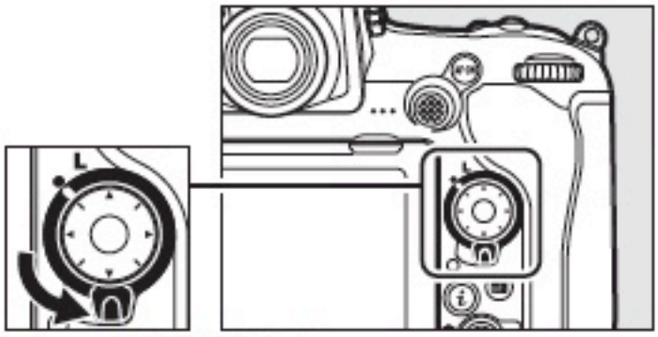
フォーカスポイントを自分で選ぶ



153点のフォーカスポイントのうち、55点を自分で選べます。[**撮像範囲設定**]（🕮82）が[**1.3× (18×12)**]のときは、117点のフォーカスポイントのうち45点が選べます。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回して • に合わせ、ロックを解除すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。



フォーカスポイントロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、ファインダーをのぞきながらマルチセレクターでフォーカスポイントを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- **中央**ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。

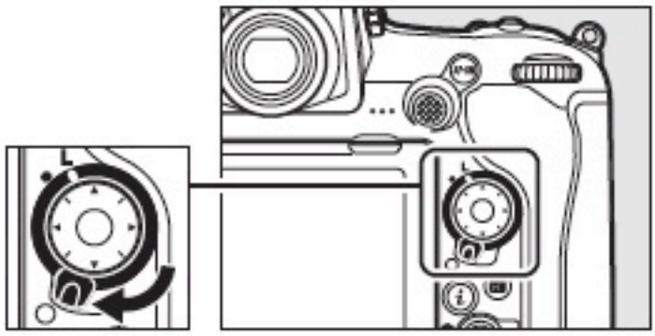








- フォーカスポイントロックレバーを**L**の位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。

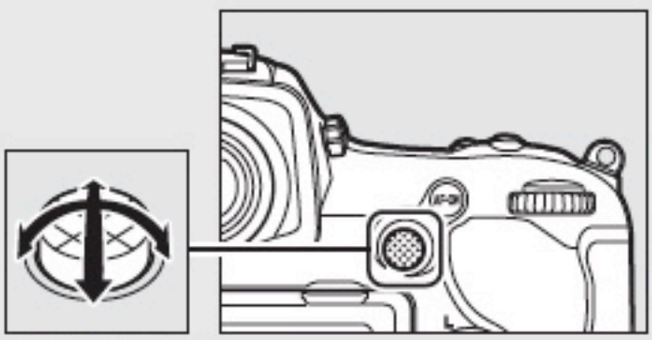


☑ オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

サブセレクターについて

- サブセレクターは、**中央**を押す操作に加え、右の図のように上下左右に倒して操作することもできます。側面から押すと、正しく動作しないことがあります。
- マルチセレクターの代わりにサブセレクターを上下左右に倒してフォーカスポイントを選ぶこともできます。



サブセレクター

- サブセレクターの**中央**を押している間、AEロック（🕮135）とフォーカスロック（🕮105）を同時に行います。
- サブセレクターを操作するときは、爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

関連ページ

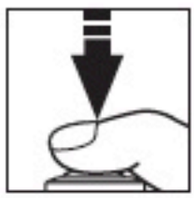
- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → a6 [**AF点数切り換え**] (282)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントや AF エリアモードを設定する → a7 [**縦/横位置フォーカス切換**] (282)
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → a11 [**フォーカスポイント循環選択**] (282)
- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する → a12 [**フォーカスポイント表示の設定**] (283)
- サブセレクターを上下左右に倒したときの機能を変更する → f1 [**カスタムボタンの機能**] の [**サブセレクター**] (289)
- サブセレクターの**中央**を押したときの機能を変更する → f1 [**カスタムボタンの機能**] の [**サブセレクター中央**] (289)
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押したときの機能を変更する → f2 [**中央ボタンの機能**] (289)

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（🕮107）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（🕮97）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする





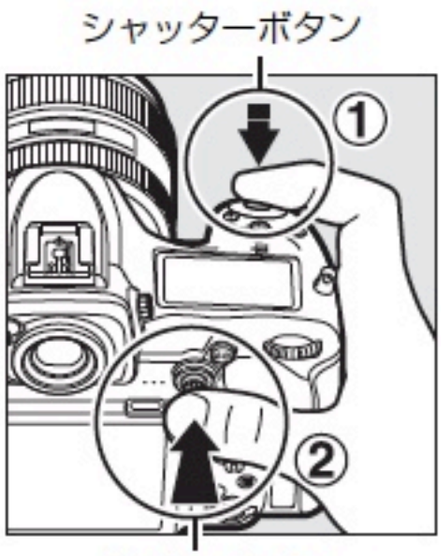
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

2 ピントを固定する

AFモード（🕮95）がAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、サブセレクターの**中央**を押すと（②）、ピントが固定されます。サブセレクターの**中央**を押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

- サブセレクターの**中央**を押している間、ファインダー内には**AE-L**マークが点灯します。





AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。サブセレクターの**中央**を押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する





- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニューc1［**シャッターボタンAEロック**］を［**する（半押し）**］に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます（🕮284）。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- サブセレクターの**中央**を押してフォーカスロックを行った場合は、サブセレクターの**中央**を押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AF-ONボタンを使ったフォーカスロックについて

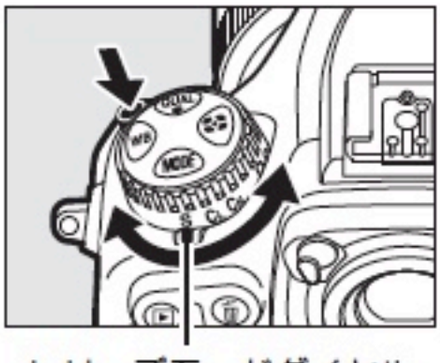
- シャッターボタンの代わりに**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせることもできます（🕮96）。
- ファインダー撮影時にカスタムメニューa8［**半押しAFレンズ駆動**］（🕮282）が［**しない**］に設定されている場合は、**AF-ON**ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、**AF-ON**ボタンでピントを合わせた後で**AF-ON**ボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持します。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度**AF-ON**ボタンを押してください。

レリーズモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する

レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

- レリーズモードのアイコンをレリーズモードダイヤル指標に合わせてください。



レリーズモードダイヤル指標

レリーズモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～9コマ/秒※で連続撮影できます。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約10コマ/秒で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、セットアップメニュー［**電子音設定**］（🕮294）の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。
QC 静音連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ/秒で連続静音撮影します。
⏲ セルフタイマー撮影	セルフタイマー撮影ができます（🕮113）。

レリーズモード	内容
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます（🕮115）。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

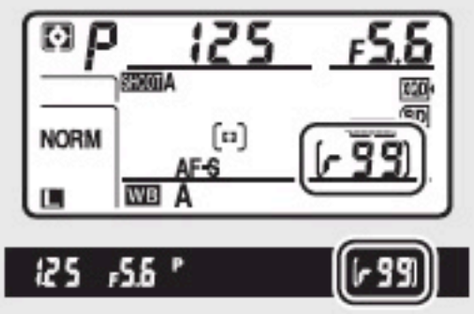
※ カスタムメニューd1［**低速連続撮影速度**］（🕮285）で設定した連続撮影速度になります。

連続撮影速度について

連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、露出モードが**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL15で、その他が初期設定のときの値です。次の場合などは連続撮影速度が遅くなることがあります。

- シャッタースピードが低速の場合
- 感度自動制御を［**する**］にして感度が自動制御されているとき（🕮118）
- ISO感度を高感度（Hi 0.3～Hi 5）に設定している場合
- 静止画撮影メニュー［**フリッカー低減**］の［**フリッカー低減機能**］が［**有効**］のときに、フリッカーが検出されている場合（🕮276）
- レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
- VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正機能をONにしたとき
- バッテリー残量が少ないとき
- 一部のレンズを使用したとき
- 非CPUレンズ装着時およびカスタムメニューf4［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定した場合（🕮290）

連続撮影可能コマ数について



- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、最低99コマ続けて撮影できることを示しています。
- ただし、「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

ISO感度

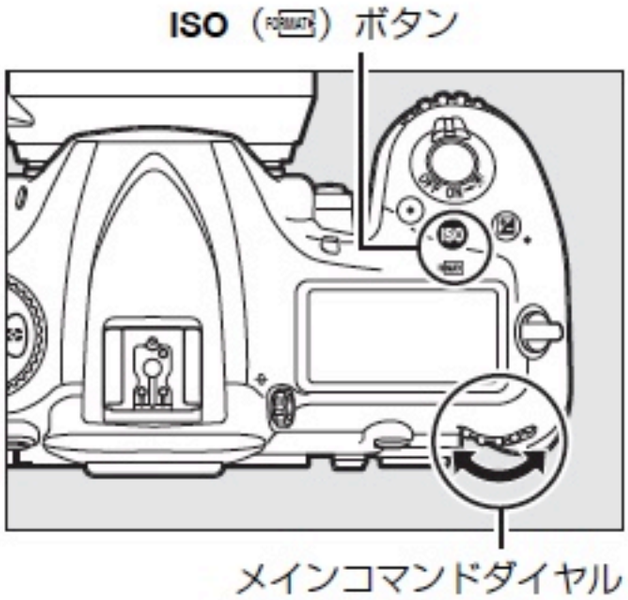
ISO感度を変更する

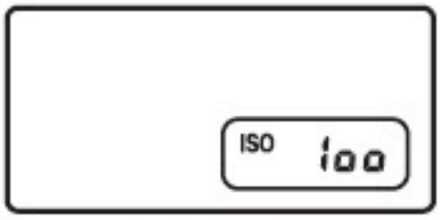
撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 100～51200の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 51200から約0.3段～約5段の範囲での増感ができます。

■ ISO感度の設定方法

ISO（FORMAT）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ISO感度は、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。





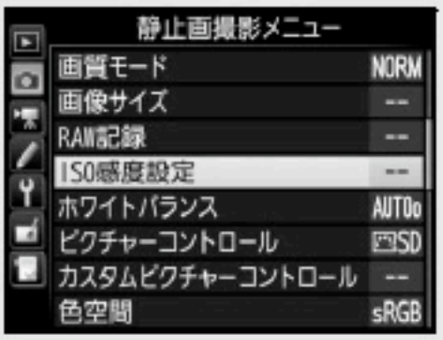
表示パネル



ファインダー内表示

[ISO感度]について

ISO感度は静止画撮影メニュー（272）の［**ISO感度設定**］でも設定できます。



ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

高感度（Hi 0.3～Hi 5）に設定した場合

ISO 感度を［**Hi 0.3**］に設定すると、ISO 51200 に対して約 0.3 段分増感し（ISO 64000相当）、［**Hi 5**］では約5段分の増感になります（ISO 1640000相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度を［**Lo 0.3**］に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します（ISO 80相当）。［**Lo 1**］では約1段分の減感になります（ISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では［**100**］以上をお使いください。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する → b1［**ISO感度設定ステップ幅**］（283）
- 表示パネルやファインダーに ISO 感度を表示する → d3［**ISO 感度表示**］（285）
- 高感度撮影時のノイズを低減する → **/［**高感度ノイズ低減**］（275、279）

感度自動制御機能を使う

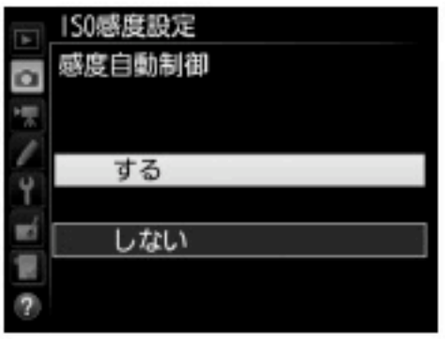
感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

■■ 感度自動制御の設定方法

1 静止画撮影メニューの［ISO感度設定］で［感度自動制御］を選んでマルチセレクターの▶を押す



2 ［する］を選ぶ



- ［**する**］を選んでOKボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- ［**しない**］を選ぶと、［**ISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。

測光・露出

測光モードを設定する

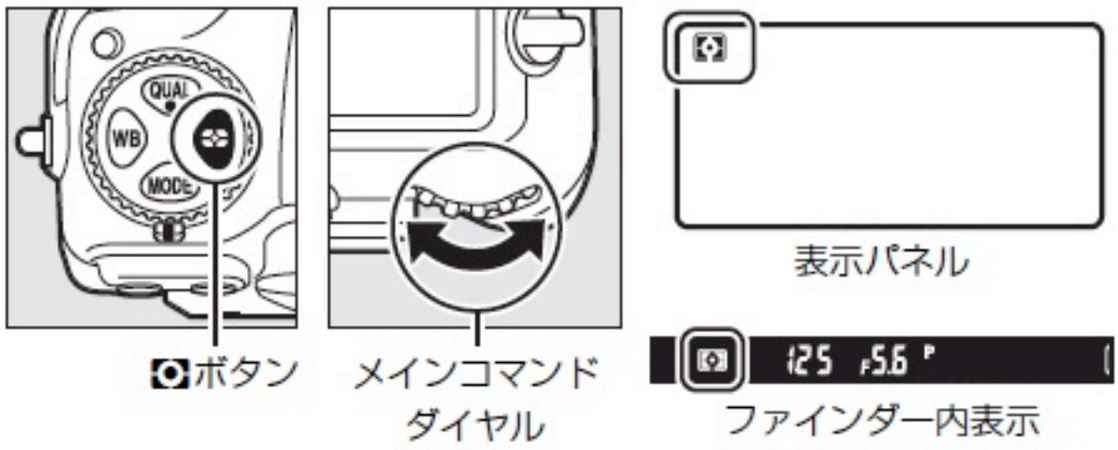
適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。

マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニューb6［**中央部重点測光範囲**］（🕮284）で変更できますが、非CPUレンズ使用時はφ8mm相当になります。
スポット測光	フォーカスポイントに重なるφ3.5mm相当（全画面の約2.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード（🕮97）がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
ハイライト重点測光	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

▮▮ 測光モードの設定方法

⊡ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

• 測光モードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



🖉 マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

- **CPUレンズ**
  - **「3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ」**：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
  - **「RGBマルチパターン測光Ⅲ」**：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。
- **非CPUレンズ**
  - セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（🕮239）でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

🖉 ハイライト重点測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがハイライト重点測光のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に中央部重点測光に変更されます（🕮310）。

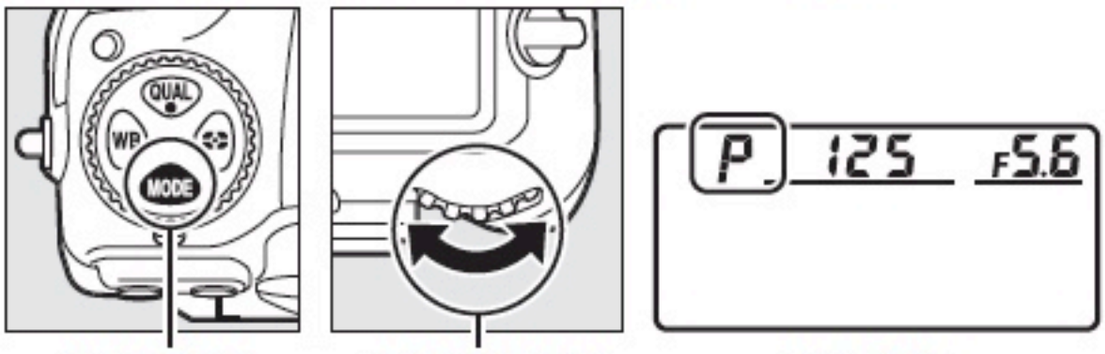
🖉 関連ページ

- マルチパターン測光時に顔検出をするかどうかを設定する → 🖉 b5［**マルチパターン測光**］（🕮284）
- 中央部重点測光の測光範囲を変更する → 🖉 b6［**中央部重点測光範囲**］（🕮284）
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める → 🖉 b7［**基準露出レベルの調節**］（🕮284）

シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを設定できます。

- 表示パネルの露出モードのアイコンが切り替わります。



MODEボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

P プログラムオート（□124）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート（□125）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート（□126）	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル（□128）	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

使用レンズについてのご注意

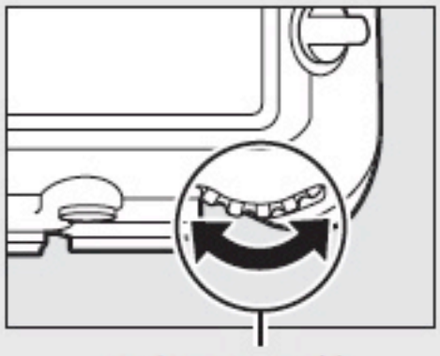
- CPUレンズ（G タイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリング（□313）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 露出モードがPまたはSのときに非CPUレンズ（□313）を装着すると、露出モードを自動的にAに切り換えて制御します。このとき、表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内表示にAが点灯します。

P（プログラムオート）

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

プログラムシフトについて

露出モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク✱が点灯します。



メインコマンドダイヤル

- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク✱が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

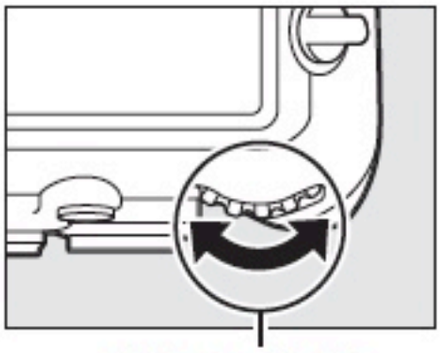
関連ページ

「ファインダー撮影時の半押しタイマーについて」（🕮38）

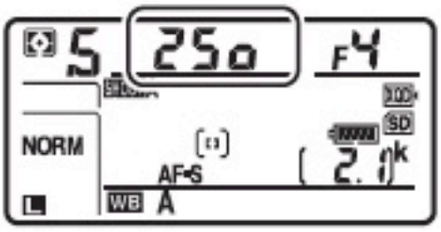
S（シャッター優先オート）

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

- シャッタースピードは1/8000（8000）～30秒（30''）、x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできます（🕮133）。



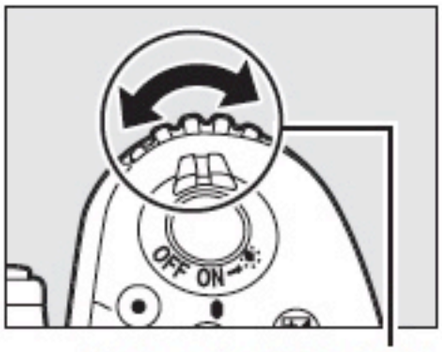
メインコマンド
ダイヤル



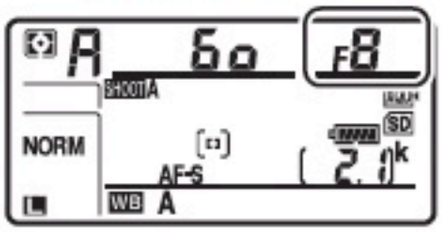
A（絞り優先オート）

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます（🕮133）。



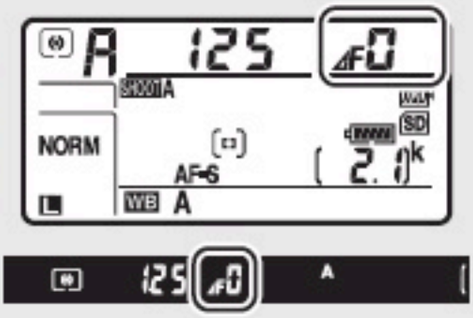
サブコマンドダイヤル



非CPUレンズを取り付けた場合

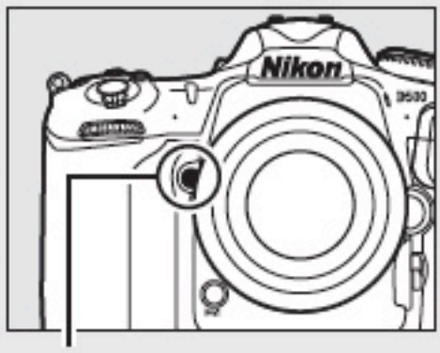
非CPUレンズを装着してセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（🕮239）でレンズの開放絞り値（開放F値）を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（**AF**、開放絞りは**AF0**）となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。別売のニコンクリエイティブライティングシステム（🕮317）対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします（🕮320）。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニューe5［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください（🕮288）。



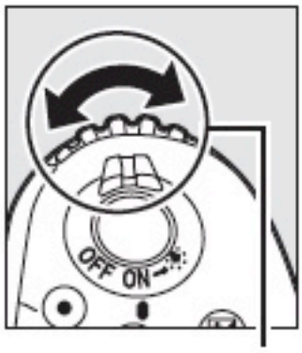
Pvボタン

M（マニュアル）

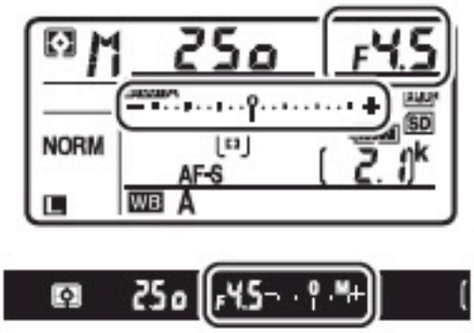
シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、🕮130）で撮影する場合には、この露出モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケーターを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30''）および bulb（バルブ）、- -（タイム）、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（🕮133）。

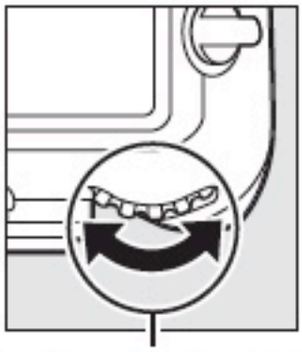
絞り値の設定



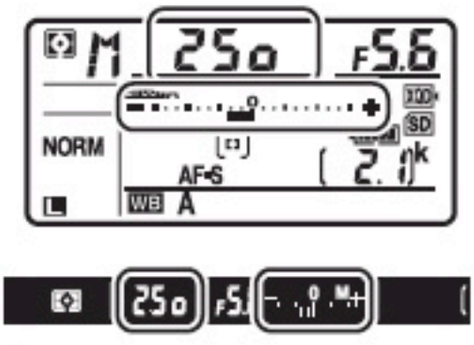
サブコマンドダイヤル



シャッタースピードの設定



メインコマンドダイヤル

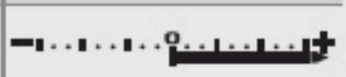
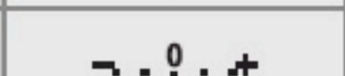
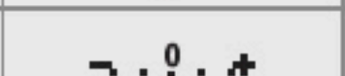
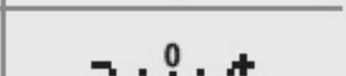


AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニューb2［**露出設定ステップ幅**］（🕮283）の設定によって変化します）。

	［露出設定ステップ幅］が［1/3段］のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
表示パネル			
ファインダー内表示			

露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケーターが点滅して警告します。

関連ページ

インジケーター表示の+/−方向を変更する → f7［**インジケーターの+/−方向**］（🕮290）

長時間露出で撮影する（露出モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



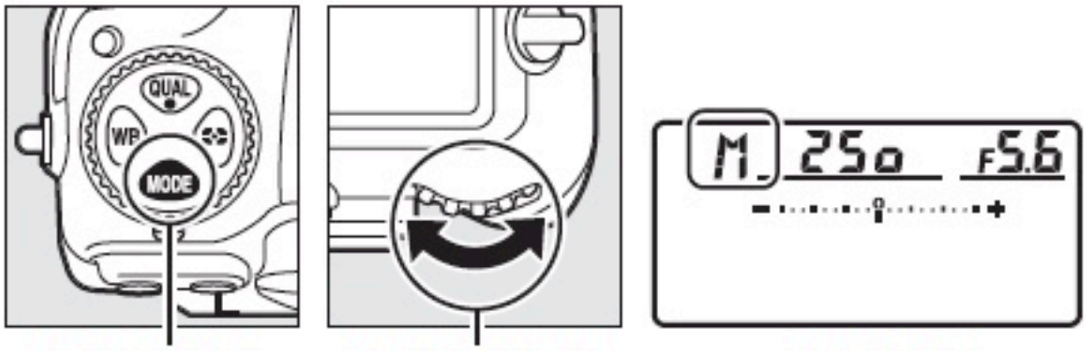
シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚、別売のワイヤレスリモートコントローラー（🕮324）、リモートコード（🕮325）などが必要です。

1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにMを表示させる



MODEボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（🕮121）を中央部重点測光またはスポット測光に設定すると効果的です。


－1段補正

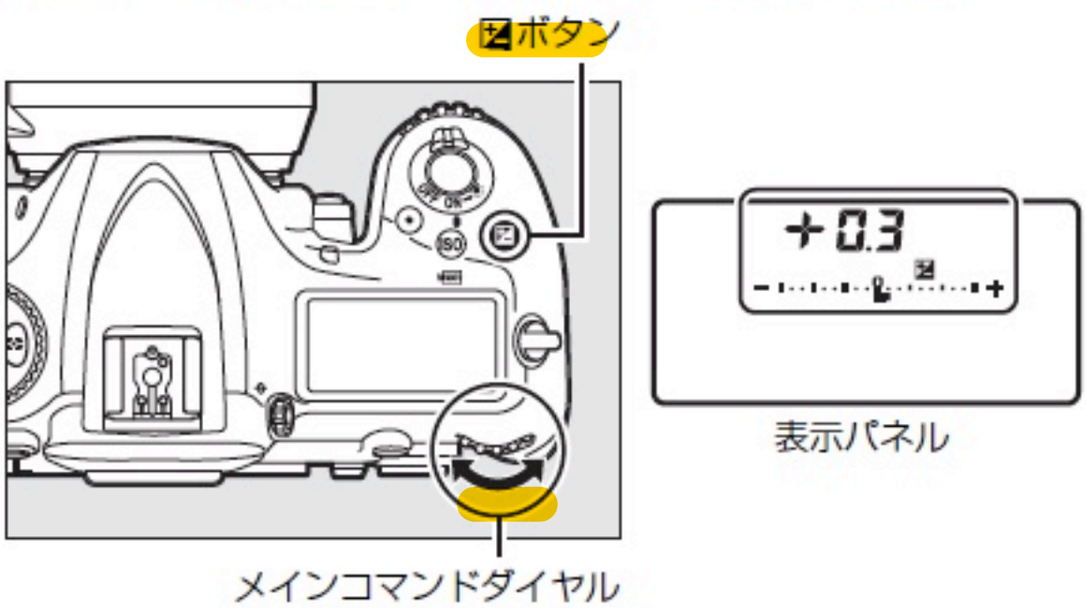

露出補正なし


＋1段補正

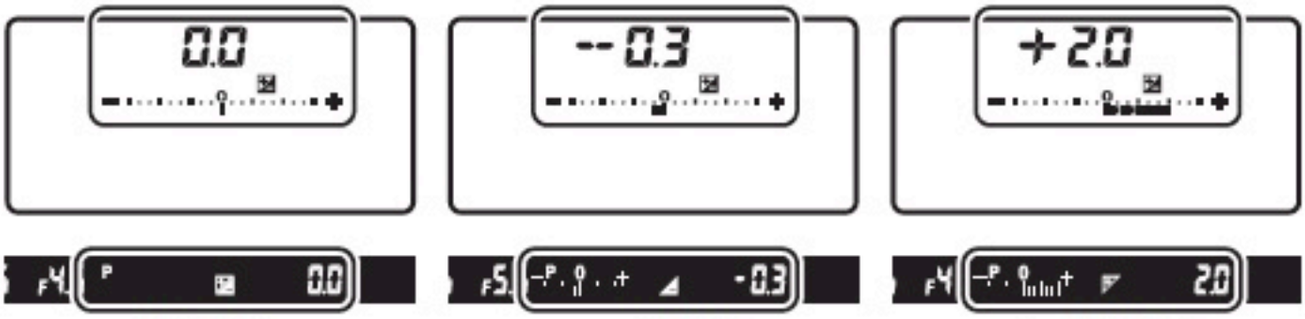
■■ 露出補正の設定方法

ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 露出補正値は、表示パネルに表示されます。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。



- ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。

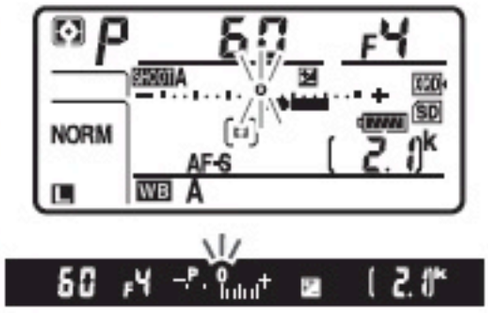


補正なし
（ボタンを押したとき）

−0.3段補正

＋2段補正

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マークと露出補正インジケーターが表示され、露出モードがP、S、またはAの場合は［0］が点滅します。



- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは−側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

露出モードMでの露出補正について

露出モードがMのときは、インジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

別売スピードライト使用時の露出補正

別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニューe3［**フラッシュ使用時の露出補正**］、288）。

関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → b3［**露出・調光補正ステップ幅**］(📖283)
- ±ボタンを使わずに露出補正する → b4［**露出補正簡易設定**］(📖283)
- 露出補正値を変えながら撮影する →「AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」(📖141)

オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■■ オートブラケティングの設定方法

オートブラケティングの種類は、静止画撮影メニューの［**オートブラケティングのセット**］（🕮276）で設定できます。



AE・フラッシュブラケティング	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AEブラケティング	露出値（AE）を変えながら撮影します。
フラッシュブラケティング	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WBブラケティング	ホワイトバランス（🕮151）の色温度を変えながら撮影します。
ADLブラケティング	アクティブD-ライティング（🕮180）の効果の度合いを変えながら撮影します。

■ AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法


補正なし

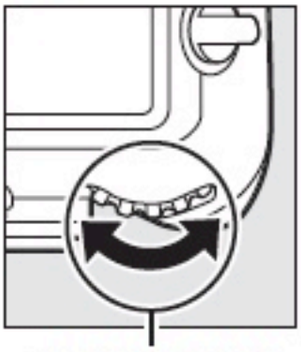

－1段補正

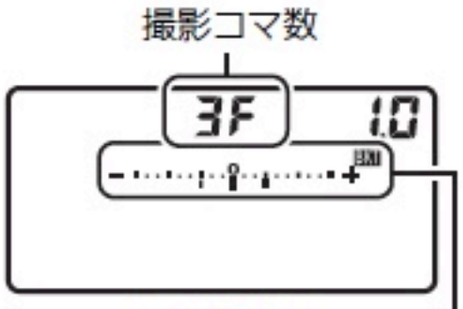

＋1段補正

1 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。


BKTボタン


メインコマンドダイヤル



- **0F**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークとオートブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示に**BKT**が表示されます。



AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

［**AE・フラッシュブラケティング**］では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは［**AEブラケティング**］を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは［**フラッシュブラケティング**］を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光（㊎A）時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（🕮189、317）。

2 補正ステップを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。



BKTボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）、2.0（2段）、3.0（3段）から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順1で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	オートブラケティングインジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3		0	0
+3F 0.3		3	0/＋0.3/＋0.7
−3F 0.3		3	0/−0.7/−0.3
+2F 0.3		2	0/＋0.3
−2F 0.3		2	0/−0.3
3F 0.3		3	0/−0.3/＋0.3
5F 0.3		5	0/−0.7/−0.3/＋0.3/＋0.7
7F 0.3		7	0/−1.0/−0.7/−0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0
9F 0.3		9	0/−1.3/−1.0/−0.7/−0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0/＋1.3

3 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示には、オートブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、オートブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7

1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正（🕮137）を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

■ AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を**OF**にしてください（**BKT**マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮222）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → b2［**露出設定ステップ幅**］（🕮283）
- オートブラケティングの撮影順を変更する → e7［**BKTの順序**］（🕮289）
- **BKT**ボタンの機能を変える → f1［**カスタムボタンの機能**］の［**BKTボタン+**］（🕮289）

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のAUTO（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
AUTO オート	約3500～8000K※	AUTO（オート）で充分な効果を得るには、G、EまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。また、別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO0 白を優先する		
AUTO1 標準		
AUTO2 電球色を残す		
電球	約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯	—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
晴天	約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（🕮121）。



アクティブD-ライティング
［**しない**］



アクティブD-ライティング
［**AUTO オート**］

静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［アクティブD-ライティング］と画像編集メニュー［D-ライティング］の違い

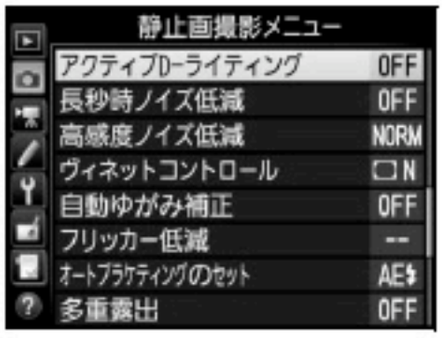
［**アクティブD-ライティング**］を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、［**D-ライティング**］（🕮301）は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 露出モードがMのときは、［**AUTO Aオート**］に設定していても［**N N標準**］相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 5）のときは機能しません。

アクティブD-ライティングの設定方法

1 静止画撮影メニューの［アクティブD-ライティング］を選んでマルチセレクターの▶を押す



2 効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- ［**オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



動画撮影時のアクティブD-ライティングについて

- 動画の画像サイズを3840×2160に設定している場合、動画撮影時のアクティブD-ライティングは機能しません。
- 静止画撮影メニューのアクティブDライティングが［**オート**］のときに、動画撮影メニューで［**静止画の設定と同じ**］を選んだ場合は、［**標準**］と同じ設定になります。

関連ページ

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する →「ADLブラケティングの撮影方法」(□148)

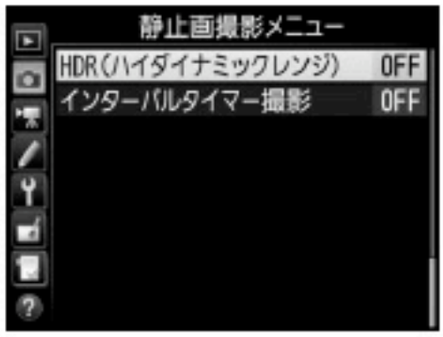
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（📖121）。



露出暗めで撮影した画像　＋　露出明るめで撮影した画像　→　HDRモードで合成された画像

1 静止画撮影メニューの［HDR（ハイダイナミックレンジ）］を選んでマルチセレクターの▶を押す



RAWを含む画質モードについて

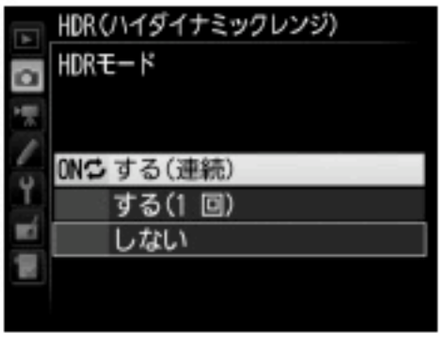
RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

2 [HDRモード] を設定する

- [**HDRモード**] を選んで▶を押します。

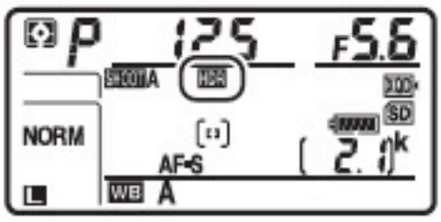


- ▲または▼を押してHDRモードを設定し、⊛ボタンを押します。



ON する（連続）	解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度［**HDRモード**］を選んで［**しない**］を選んでください。
する（1回）	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、表示パネルにHDRマークが点灯します。



フラッシュ撮影

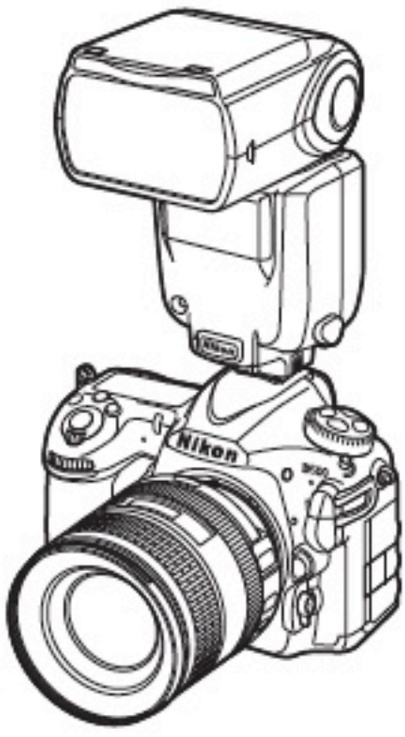
別売スピードライト（🕮317）をカメラに装着すると、フラッシュ撮影ができます。複数のスピードライトをリモート制御して、増灯撮影することもできます。

- お使いのスピードライトの使用方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

別売スピードライトをカメラに装着して撮影する

1 カメラのアクセサリーシューにスピードライトを装着する

- スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



2 カメラとスピードライトの電源をONにする

- スピードライトの充電が開始され、撮影ができる状態になるとファインダー内表示にϟ（レディーライト）が点灯します。

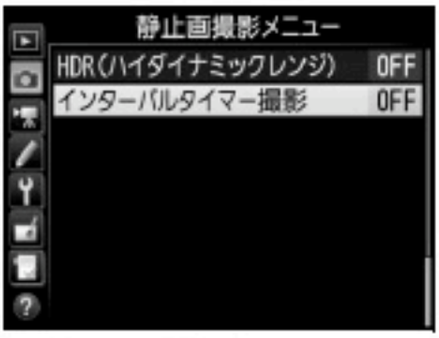
3 発光モード（🕮190）とフラッシュモード（🕮192）を設定する

設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

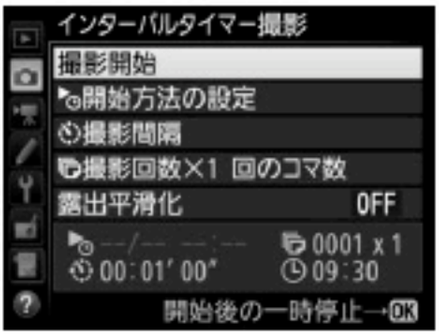
このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、レリーズモードをS、CL、CH、Q、QcまたはMUPに設定して撮影してください。

■ インターバルタイマー撮影の開始

1 静止画撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選ぶ



- マルチセレクターの▶を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



非CPUレンズを使う（レンズ情報手動設定）

このカメラでは、非CPUレンズ装着時も露出モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの情報をカメラに登録すると、非CPUレンズ（🕮313）を使って撮影するときに、次の機能が使用できるようになります。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
  - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
  - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
  - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
  - スピードライトの絞り連動外部自動調光（㊎A）
  - 再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
  - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
  - 中央部重点測光
  - スポット測光
  - i-TTL調光

☑ ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

画像の再生

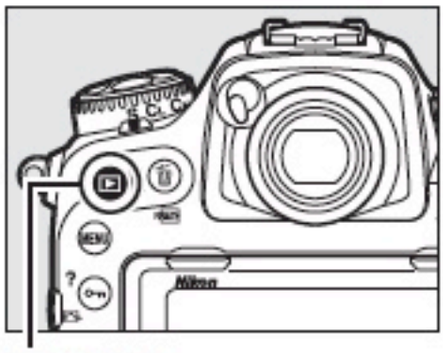
画像を再生する



1コマ表示モード

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。

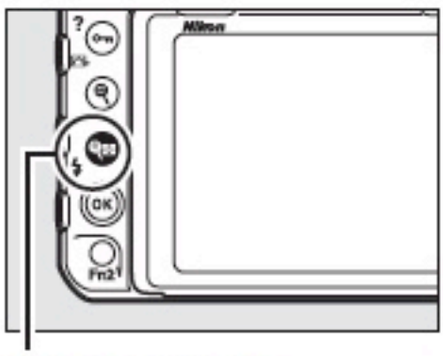
- マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。タッチパネルをフリックしても画像を切り換えられます。
- ▲または▼を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（🕮251）。


▶ボタン

サムネイル表示モード

1コマ表示モードのときに🔍（ϟ）ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

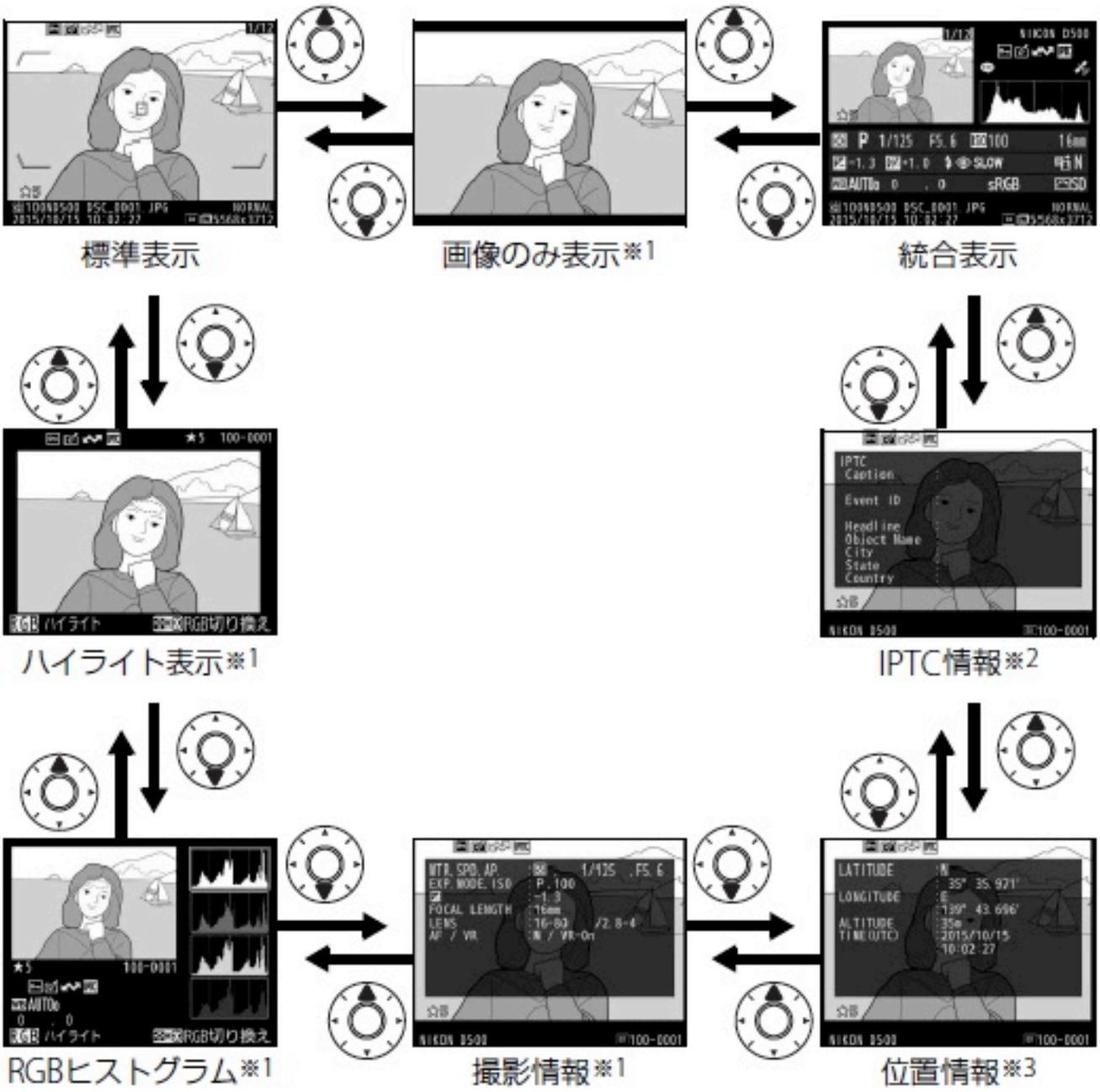
- 表示される画像の数は、🔍（ϟ）ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、🔍ボタンを押すたびに減ります。


🔍（ϟ）ボタン

- マルチセレクターの▲▼◀▶またはななめを押して画像を選びます。
- タッチパネルを上下にスライドすると画面をスクロールできます。

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（🕮270）で設定している場合のみ表示します。
※2 IPTCプリセット（🕮294）を添付した静止画の場合のみ表示します。
※3 撮影時に位置情報（🕮242）を記録した画像の場合のみ表示します。

スマートフォンに取り込みたい画像をカメラで送信指定する

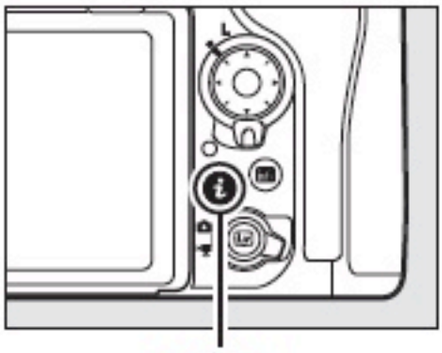
カメラとスマートフォンを接続していないときに、スマートフォンに取り込みたい静止画をあらかじめカメラで選んで送信指定することができます。動画は送信指定できません。

表示中の画像を送信指定する

1 送信指定する画像を選ぶ

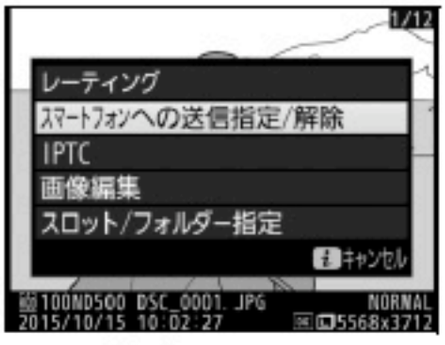
- 1コマ表示モードのときは、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

2 iボタンを押す



iボタン

3 [スマートフォンへの送信指定/解除] を選んでⓄⓀボタンを押す



- アイコンが表示されます。



送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。

複数の画像をまとめて送信指定する

1 再生メニューの［スマートフォンへの送信指定］で［画像の選択］を選んでマルチセレクターの▶を押す

2 送信指定する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、**中央**ボタンを押すと、✈が表示されて送信指定されます。もう一度**中央**ボタンを押すと解除されます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 設定を完了する

- OKボタンを押して、設定を完了します。

メニュー一覧

ここでは各メニュー項目の一覧が記載されています。各メニュー項目についての詳しい説明は、メニューガイドをご覧ください。

▶ 再生メニュー

削除	
選択画像削除	複数の画像を一括して削除するときに使います（🕮268）。
全画像削除	
再生フォルダー設定	初期設定：[**全てのフォルダー**]
（フォルダーグループ名）	ここで選んだフォルダーに保存されている画像が、再生時に表示されます。
全てのフォルダー	
記録中のフォルダー	
非表示設定	
設定	画像の表示/非表示を設定できます。このメニューで非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。
一括解除	
再生画面設定	
標準表示への情報追加	1コマ表示モードで表示する画像情報を追加できます（🕮251）。
フォーカスポイント	
再生画面の追加	
画像のみ	
ハイライト	
RGBヒストグラム	
撮影情報	
統合表示	

画像コピー	
コピー元の選択	メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。
コピー元画像の選択	
コピー先フォルダーの選択	
コピー実行	
撮影直後の画像確認	初期設定：[**しない**]
する	撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します（🕮247）。
しない	
削除後の次再生画像	初期設定：[**後ろのコマ**]
後ろのコマ	画像を削除した後に表示する画像を設定できます。
前のコマ	
直前コマ送り方向に従う	
連続撮影後の再生画像	初期設定：[**最後の画像**]
先頭の画像	最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。
最後の画像	
縦横位置情報の記録	初期設定：[**する**]
する	撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。
しない	
縦位置自動回転	初期設定：[**する**]
する	縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します（🕮247）。
しない	
スライドショー	
開始	画像や動画を連続再生します。
再生画像の種類	
インターバル設定	
スマートフォンへの送信指定	
画像の選択	スマートフォンに取り込みたい静止画を送信指定することができます（🕮266）。
送信指定の一括解除	

静止画撮影メニュー

静止画撮影メニューの管理	
A	静止画撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。
B	
C	
D	

静止画撮影メニューの拡張	初期設定：[**しない**]
する	静止画撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出モード、シャッタースピード（露出モード**S**、**M**のみ）、絞り値（露出モード**A**、**M**のみ）、フラッシュモードを記憶できます。
しない	

記録フォルダー設定	
フォルダーグループ名変更	画像を保存するフォルダーを設定します。フォルダーを新しく作成することもできます。
フォルダー番号指定	
既存フォルダーから選択	

ファイル名設定	
ファイル名設定	このカメラで撮影した画像のファイル名DSC_nnnn.xxxまたは_DSCnnnn.xxx　の「DSC」の3文字を任意に変更できます。

主スロットの選択	初期設定：[**XQDスロット**]
XQDスロット	XQDカードとSDカードを同時に使うときの、優先的に使うスロット（主スロット）を設定できます。
SDスロット	

副スロットの機能	初期設定：[**順次記録**]
順次記録	メモリーカードスロットを両方使用して画像を記録する場合の、副スロットの機能を設定できます（🕮90）。
バックアップ記録	
RAW+JPEG分割記録	

フラッシュ発光	
発光モード	別売のスピードライトを取り付けた場合の、発光モードとワイヤレス増灯撮影時の設定を行います（🕮190）。
ワイヤレス設定	
増灯発光モード	
電波リモートフラッシュ情報	
撮像範囲設定	初期設定：[**DX（24×16）**]
DX（24×16）	撮像範囲を設定できます（🕮82）。
1.3×（18×12）	
画質モード	初期設定：[**NORMAL**]
RAW+FINE★	画像を記録するときの画質モードを設定できます（🕮85）。★がない項目はサイズ優先、★がある項目は画質優先となります。
RAW+FINE	
RAW+NORMAL★	
RAW+NORMAL	
RAW+BASIC★	
RAW+BASIC	
RAW	
FINE★	
FINE	
NORMAL★	
NORMAL	
BASIC★	
BASIC	
TIFF（RGB）	
画像サイズ	
JPEG/TIFF	画像を記録するときの画像サイズ（大きさ）をファイル形式ごとに設定できます（🕮88）。
RAW	
RAW記録	
圧縮方式	RAW画像を記録するときの圧縮方式や記録ビット数を設定します（🕮87）。
記録ビットモード	

ISO感度設定	
ISO感度	静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます（🕮116、118）。
感度自動制御	
ホワイトバランス	初期設定：[**オート**]
オート	光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します（🕮151）。
電球	
蛍光灯	
晴天	
フラッシュ	
曇天	
晴天日陰	
色温度設定	
プリセットマニュアル	
ピクチャーコントロール	初期設定：[**スタンダード**]
スタンダード	記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます（🕮171）。
ニュートラル	
ビビッド	
モノクローム	
ポートレート	
風景	
フラット	
カスタムピクチャーコントロール	
編集と登録	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます（🕮176）。
登録名変更	
削除	
メモリーカードを使用	
色空間	初期設定：[**sRGB**]
sRGB	記録する静止画の色空間を指定できます。
Adobe RGB	

アクティブD-ライティング	初期設定：[しない]
オート	白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます（🕮180）。
より強め	
強め	
標準	
弱め	
しない	
長秒時ノイズ低減	初期設定：[しない]
する	シャッタースピードが遅いときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減できます。
しない	
高感度ノイズ低減	初期設定：[標準]
強め	ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。
標準	
弱め	
しない	
ヴィネットコントロール	初期設定：[標準]
強め	レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。
標準	
弱め	
しない	
自動ゆがみ補正	初期設定：[しない]
する	広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。
しない	

フリッカー低減	
フリッカー低減機能	[**フリッカー低減機能**] を [**有効**] にすると、ファインダー撮影時に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）の影響が少ないタイミングで撮影できます（🕮225）。[**フリッカー検出の表示**] では、フリッカーを検出したとき、ファインダー内に**FLICKER**を表示するかどうかを設定できます。
フリッカー検出の表示	
オートブラケティングのセット 初期設定：[**AE・フラッシュブラケティング**]	
AE・フラッシュブラケティング	オートブラケティング（🕮140）の種類を設定できます。
AEブラケティング	
フラッシュブラケティング	
WBブラケティング	
ADLブラケティング	
多重露出	
多重露出モード	2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します（🕮227）。
コマ数	
合成モード	
HDR（ハイダイナミックレンジ）	
HDRモード	輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します（🕮182）。
露出差	
スムージング	
インターバルタイマー撮影	
撮影開始	設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます（🕮232）。
開始方法の設定	
撮影間隔	
撮影回数×1回のコマ数	
露出平滑化	

動画撮影メニュー

動画撮影メニューのリセット	
する	動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。
しない	
ファイル名設定	
ファイル名設定	このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.movの「DSC」の3文字を任意に変更できます。
動画記録先	初期設定：[**XQDスロット**]
XQDスロット	メモリーカードを2枚使用している場合に、動画を記録するスロットを設定します。
SDスロット	
撮像範囲設定	初期設定：[**DX**]
DX	撮像範囲を設定できます（🕮63）。
1.3×	
画像サイズ/フレームレート	初期設定：[**1920×1080 60p**]
3840×2160 30p	動画の画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します（🕮61）。
3840×2160 25p	
3840×2160 24p	
1920×1080 60p	
1920×1080 50p	
1920×1080 30p	
1920×1080 25p	
1920×1080 24p	
1280×720 60p	
1280×720 50p	
動画の画質	初期設定：[**高画質**]
高画質	動画の画質を選べます（🕮61）。
標準	

ISO感度設定	
Mモード時のISO感度設定	動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。
Mモード時の感度自動制御	
制御上限感度	
ホワイトバランス	初期設定：[**静止画の設定と同じ**]
静止画の設定と同じ	動画撮影時のホワイトバランスを設定できます。[**静止画の設定と同じ**] を選ぶと、静止画撮影メニューの [**ホワイトバランス**] と同じ設定になります（🕮274）。
オート	
電球	
蛍光灯	
晴天	
曇天	
晴天日陰	
色温度設定	
プリセットマニュアル	
ピクチャーコントロール	初期設定：[**静止画の設定と同じ**]
静止画の設定と同じ	動画撮影時のピクチャーコントロールを設定できます。[**静止画の設定と同じ**] を選ぶと、静止画撮影メニューの [**ピクチャーコントロール**] と同じ設定になります（🕮274）。
スタンダード	
ニュートラル	
ビビッド	
モノクローム	
ポートレート	
風景	
フラット	
カスタムピクチャーコントロール	
編集と登録	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます（🕮176）。
登録名変更	
削除	
メモリーカードを使用	

アクティブD-ライティング	初期設定：[しない]
静止画の設定と同じ	白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い動画を記録できます（🕮180）。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影メニューの [アクティブ D- ライティング]（🕮275）と同じ設定になります。
より強め	
強め	
標準	
弱め	
しない	

高感度ノイズ低減	初期設定：[標準]
強め	ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。
標準	
弱め	
しない	

フリッカー低減	初期設定：[オート]
オート	ライブビュー表示中（🕮39）や動画記録中（🕮54）に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。
50 Hz	
60 Hz	

マイク感度	初期設定：[マイク感度 オート]
マイク感度 オート	内蔵マイクまたは外部マイク（🕮325）の感度の程度を設定します。
マイク感度 マニュアル	
録音しない	

録音帯域	初期設定：[広帯域]
広帯域	内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します。
音声帯域	

風切り音低減	初期設定：[しない]
する	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます。
しない	

微速度撮影	
撮影開始	設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます（🕮68）。
撮影間隔	
撮影時間	
露出平滑化	

電子手ブレ補正	初期設定：[**しない**]
する	動画記録時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。
しない	

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
画像モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

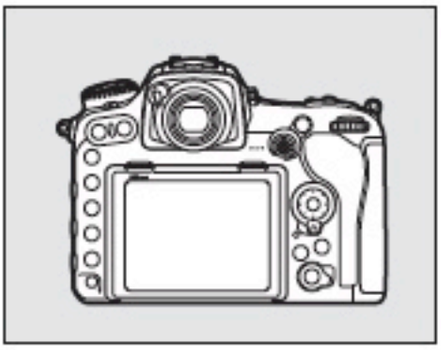
アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

撮像素子のお手入れについて

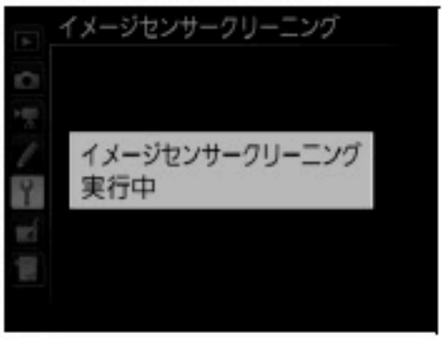
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■■ セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの［**イメージセンサークリーニング**］を選び、［**実行**］を選んで㊎ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルに**buSY**が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。



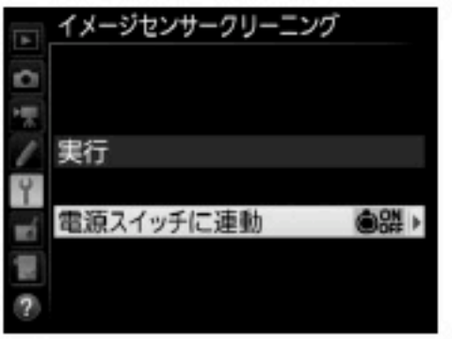




■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

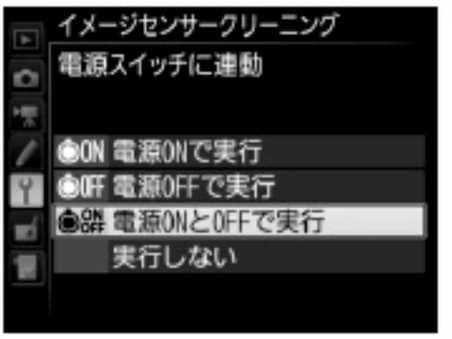
ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

1 [イメージセンサークリーニング]画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ



- ［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ



- ⓞⓚボタンを押して設定します。

☑ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、撮像素子前面を市販のブロアーで掃除する（🕮329）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

撮像素子前面をブロアーで掃除する

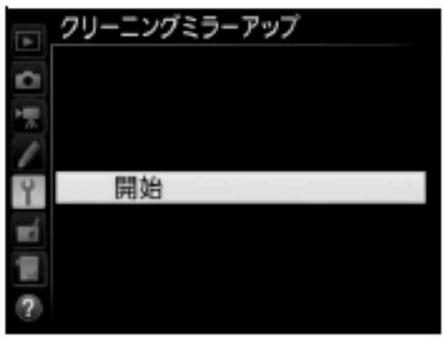
イメージセンサークリーニング（🕮327）でゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせてお使いください。
- セットアップメニューの［**クリーニングミラーアップ**］を使用します。バッテリー残量表示が▭以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

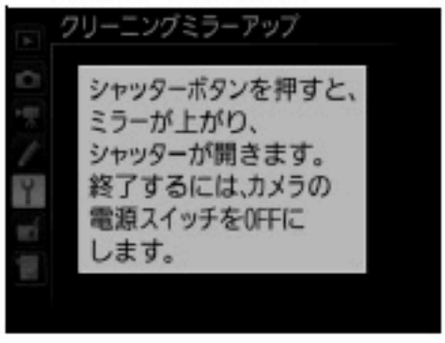
- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 ⓞⓚボタンを押す

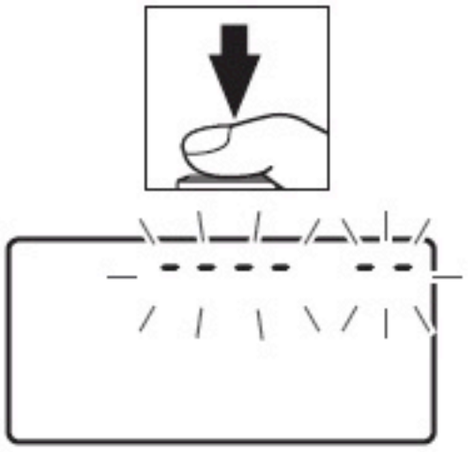
- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 画像モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- 撮像素子のお手入れをやめるには、カメラの電源をOFFにしてください。





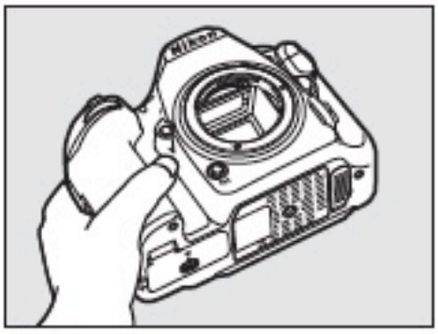
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。

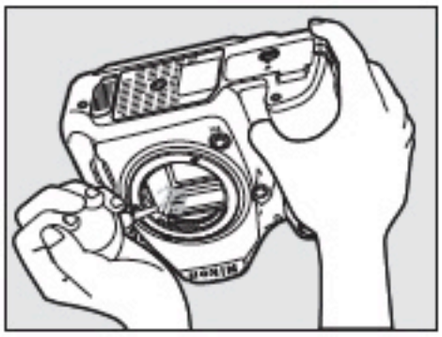


5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブロアーで払う



- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

☑ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

☑ 撮像素子前面に付着するゴミなどについて

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（🕮327）で取り除ききれないときは、329ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

☑ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子の手入れ方法について

撮像素子のクリーニングの方法については🕮327、329をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 画像モニターについて

- 画像モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99% 以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

撮影関連

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるメモリーカードが入っていますか？（🕮32、376）
- SDカードがロックされていませんか？（🕮15）
- Gタイプ、EタイプレンズCPU以外のレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに**FE E**と表示されている場合、カスタムメニューf4［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます（🕮290）。
- 露出モード**M**でシャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定し、そのまま露出モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（🕮348）。
- セットアップメニュー［**カードなし時レリーズ**］が［**レリーズ禁止**］になっていませんか？（🕮297）

● シャッターがきれるのが遅い

カスタムメニューd5［**露出ディレーモード**］を［**しない**］にしてください（🕮286）。

● 連続撮影できない

HDR撮影時は、連続撮影できません（🕮182）。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください（🕮91）。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（🕮105、108）。明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● 電子音が鳴らない

- AFモードが**AF-C**の場合、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
- ［**電子音設定**］（🕮294）の［**音量**］を［**電子音なし**］以外に設定すると電子音が鳴ります。

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。［**1/250秒（オートFP）**］に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です（🕮192）。

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

AFモードが**AF-C**に設定されている場合、サブセレクターの**中央**を押してフォーカスをロックしてください（🕮105）。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバーが**L**（ロック）の位置になっていませんか？（🕮102）
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません（🕮97）。
- AFエリアモードを顔認識AFにしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません（🕮43）。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません（🕮245、270）。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください（🕮38）。

● AFモードを変更できない

カスタムメニューa10［**AFモードの制限**］を［**制限しない**］に設定してください（🕮282）。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？（🕮275）

● **画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する**

- ISO 感度を低く設定して撮影すると、ざらつき、むら、すじ、輝点を低減できます。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、むら、輝点を低減できます（🕮275）。
- 高温となる場所での撮影や長時間露出撮影などでカメラが熱くなっている場合は、むら、輝点が強調されることがあります。カメラの電源をOFFにしてカメラ内部の温度が下がるまで涼しいところにしばらく置いてから撮影すると、むら、輝点を低減できます。
- 一部のスピードライトを使用したときに ISO 感度を高く設定して撮影すると、すじが発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- 次の場合、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの［**高感度ノイズ低減**］を［**しない**］以外に設定すると、ざらつきを低減できます（🕮275、279）。
  - ISO感度を高く設定している場合
  - ［**感度自動制御**］を［**する**］にしてISO感度が高くなった場合
- 次の条件で撮影する場合、ISO 感度を高く設定しているとざらつき、むら、すじ、輝点が強調されることがあります。
  - アクティブD-ライティングを［**しない**］以外に設定して撮影する場合
  - ［**ピクチャーコントロール**］で［**フラット**］（🕮171）を選んで撮影する場合
  - ピクチャーコントロール調整で調整する値が大きい場合（🕮173）
  - 多重露出撮影する場合
  - 長時間露出撮影する場合
  - 高温となる場所で撮影する場合

● **ライブビュー表示中の画像モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う**

ライブビュー時に画像モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません（🕮46）。

● **動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる**

動画撮影メニュー［**フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください（🕮279）。

● **ライブビューで横帯状の明るい部分が生じる**

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください（🕮327）。

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● ライブビューで画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- ライブビュー時、🔍ボタンで画面を拡大すると（🕮45）、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 動画撮影メニューの［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によっては（🕮61）、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（🕮162）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（🕮168）。

● ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない

- RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません（🕮85、145）。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません（🕮227）。

● ［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない

［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**明瞭度**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください（🕮175）。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は、測光モードを変更できません（🕮136）。

● 露出補正ができない

露出モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（🕮138）。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（🕮275）。

● 動画に音声が録音されない

動画撮影メニュー［**マイク感度**］が［**録音しない**］になっていませんか？（🕮279）

再生関連

● RAW画像が表示されない

［**画質モード**］を［**RAW＋FINE★**］、［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL★**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC★**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません（🕮86）。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（🕮270）。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？（🕮271）
- 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？（🕮271）
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません（🕮271）。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

● 画像が削除できない

画像にプロテクトが設定されていませんか？（🕮263）

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です。

● 画像を記録したのに［撮影画像がありません］と表示される

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（🕮270）。

● ダイレクトプリントができない

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません。

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの［**RAW現像**］などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください（🕮304）。
- RAW画像はパソコンに転送してから、Capture NX-Dなどのソフトウェアを使ってプリントしてください（🕮v）。

● 画像がHDMI対応機器で再生できない

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください（🕮324）。

● Capture NX-Dでイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき（🕮294）

● ［ピクチャーコントロール］、［アクティブD-ライティング］、［ヴィネットコントロール］の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dをお使いください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。